

孟德斯鳩著  
何禮之重譯  
萬法精理  
第五冊 卷十二

24038

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄號	第	號
社會科學門		
法律法學部		
總記	款	著書項
目		次
全	18	冊ノ内數 5 冊
分類號	第	號
320.8		

校學範師範福岡縣

書門

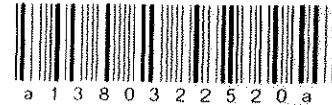
冊ノ内

T1A1

23

Ka1 1 ba

圖書 和圖書 迦



福岡教育大学蔵書

孟德斯鳩著  
何禮之重譯

# 萬法精理

明治九年  
一月刻成  
何氏藏版

萬法精理第五冊目次

卷之十一 國憲ニ相因リテ政事ノ自由ヲ定ムル

處ノ法律ヲ論ス

第一回 概論

第二回 自由ノ意義ノ一ナラサル

ヲ舉ク

第三回 自由ノ由テ成ル處ヲ論ス

第四回 同上

第五回 各政府ノ目的ヲ論ス

第六回 英國ノ國憲ヲ論ス

第七回 記者力識ル處ノ立君國  
佛蘭西ヲ論ス

第八回 古人ノ未タ立君政ノ明鮮ヲ得サリシ所以ヲ論ス

第九回 アリストートルノ考案

第十回 自餘ノ政學家ノ考案

第十一回 希臘尚武時世ノ諸王ヲ論ス

第十二回 羅馬ノ王政論及ヒ其三權ノ分配法ヲ論ス

論ス

第十三回 國王廢黜後ノ羅馬ヲ概論ス

第十四回 國王廢黜ノ後三權ノ分配法ヲ變革シタル事情ヲ記ス

第十五回 羅馬共和政ハ其全盛ノ時ニ方テ一朝

ニシテ自由權ヲ失シタル所以ヲ論ス

第十六回 羅馬共和政ノ立法權ヲ論ス

第十七回 羅馬共和政ノ行政權ヲ論ス

第十八回 羅馬政府ノ司法權ヲ論ス

第十九回 羅馬ノ地方政治ヲ論ス

第二十回 結論

萬法精理卷之十一

何禮之重譯

國憲ニ相因リテ政事ノ自由ヲ定ムル處  
ノ法律ヲ論ス

第一回 概論

國憲ニ相因リテ政事ノ自由ヲ定ムル處ノ法律ト、國  
士ノ分限ニ相因リテ政事ノ自由ヲ定ムル處ノ法律  
トハ、其間ニ一ノ溝渠アリ之ヲ混同スヘカラス、故ニ  
今其國憲ニ相因ル處ノ自由權ヲ以テ此一卷ノ題旨  
ト為シ、國士ノ分限ニ相因ルモノハ之ヲ次卷ニ講究  
セン

第二回 「リベルティ」自由ノ意義ノ一ナラサルヲ

ヲ舉ク

「リベルティ」ノ一語ノ如ク、各異ノ意義ヲ包含シ、人心ニ種々ノ注解ヲ鏤刺スルモノハ絶テアラサルナリ、或ハ歴制推ヲ僭有セル人物ヲ廢黜スルニ容易ナルノ推理ナリト謂ヒ、或ハ國ヲ舉テ其號令ヲ聞クヘキ酋長ヲ撰舉シ得ルノ推理ナリト謂ヒ、或ハ武器ヲ帶ヒテ之ニ倚頼シ得ルノ推理ナリト謂ヒ、或ハ他邦ノ人ニ沼メラレス他國ノ法律ニ服從セサルノ特權ナリト謂ヒ、或ハ吾レハスキフヲラノ法令ヲ自國ノ法律ニ從テ之ヲ裁決スル國民ニ諍論起ルハ人ハ此一事ヲ以テ自ラ不羈自由ノ人民ト思ヘリ希臘

或ハ又數百年ノ間、長髯ヲ帶フルノ特准アルヲ信シ、之ヲ此自由ト爲シ、魯西亞人ハ縱令彼ノ有名ナルペ髯ヲ剃リ去ルハシ、或ハ此自由ノ名ヲ以テ己カ治メラル、肯セサル處ノ政体ニ下シテ他ノ政体ヲ鄙斥シ、共和政ニ謳歌スルモノモ、立君政ニ心醉スルモノモ、皆ナ取テ以テ己レカ政体ノ稱トナセリ、羅馬人ハカバドシヤ建立セシメント欲シタレ氏、カバ各國ノ人民皆ナ此自由權ヲ以テ最モ能ク己カ風俗、性情ニ適應シタル政体ノ名稱ト爲ス、斯ノ如シト雖モ、共和國ニ於テハ宰官タルモノ一ニ法律ニ依頼シテ以テ治圖ヲ敷クモノナルカ故ニ、其人民ハ常ニ暴政ノ疾苦ヲ目撃

スルヲ甚ク少ナシ、然ルヲ以テ自由權ハ共和政ニ濃  
厚ニシテ立君政ニ稀薄ナリト謂ハサルヲ得ス之ヲ  
要スルニ民主政ノ人民ハ殆ト其欲スル處ノ舉動ヲ  
為シ得ルニ庶幾キヲ以テ此政体ヲ以テ自由ノ極點  
ニ達セシモノトシ、而ノ人民ノ權カト自由トハ彼此  
交和シテ分離スヘカラサルモノト謂フ可キカ

第三回 「リベルティ」ノ由リテ成ル所ヲ論ス

民主政ニ於テハ人民ハ實ニ其為サント欲スル處ノ  
舉動ヲ為シ得ルモノ、如シ、然レハ政事ノ自由ハ決  
シテ自由ノ際限ナキモノニ淵源スルニアラス、抑政  
府即チ法律ニ支配サル、社會ニ於テ自由ノ由テ立

ツ所ハ、唯吾人ノ志意ノ應ニ趨カサルヲ得サル事ヲ  
為シ得、強テ志意ノ趨ク可ラサル事ヲ為スヲ要セサ  
ル權利ヲ有スルニ在リ  
不羈自由ノ二者ハ淫渭自ラ別アリ、宜シク不斷之ヲ  
吾人ノ心相ニ識得スヘキナリ、カノ自由ナルモノハ、  
法律ノ許ス所ノ事ハ一切之ヲ為シ得ルノ權利ニシ  
テ、法律ノ所禁ヲモ敢テ冒シ為スノ謂ニアラサルナ  
リ、何トナレハ若シ一人ソノ禁スルヲモ之ヲ冒シ  
テ為シ得ルキハ他人モ亦等シク之ヲ為シ得ハキ權  
利アリ、遂ニ互ニ其自由權ヲ保持スルヲ能ハサルニ  
至ルヲ以テナリ



第四回 同上

民主、貴顯ノ二政ハ、自由ノ性質ヲ具フルモノニ非ス、政事ノ自由ノ如キハ之ヲ立憲政ニ於テノミ見出スヘシ、然リ而シテ立憲政ト雖モ亦常ニ之アルヲ保チ難ク唯、立憲政ニシテ而モ政權ヲ濫用セサル時ニ限りテ之アルヲ認メ得ヘシ、然ルニ之ヲ古今ノ實蹟ニ徴スルニ、立憲政ニ於ルト雖モ其權柄ヲ秉ルモノハ皆ナ之ヲ濫用シテ、其度ヲ失スルノ患アルヲ免レサルナリ、夫レ政事ノ自由ハ固ヨリ民徳ノ一タリ、懿徳ト雖モ之ニ制限ヲ加ヘサレハ其弊ヲ免レサルト斯ノ如シ、其理ハ實ニ誣ユヘカラサレヒ其事ハ甚タ奇異

ニアラサルハ無キヤ

此弊ヲ防クニハ唯、權ヲ以テ權ヲ制シテ偏重ニ到ラシメサルニ在ルノミ、是事理ノ己ムヲ得サル所ナリ、而シテ政府ヲ構造スルニ方テモ、又人ヲシテ敢テ法律ノ要セサル事ヲ為サシメス、又強テ法律ノ許スヲ禁セサルノ体裁ト為スヲ得ヘシ

第五回 各政府ノ目的ヲ論ス

諸ノ政府ヲ一渾シテ其目的ヲ概論スルキハ、愈々其自國ノ保存ヲ謀ルニ外ナラス、之ヲ全一ニ出ルト謂ハサルヲ得ス、然レモ各個ニ就テ之ヲ細論スレハ、又各自各殊ノ目的アラサルハナシ、即チ羅馬ノ封域ヲ

擴メントスル、斯巴爾達ノ戰鬪、猶太ノ法教、馬塞耳ノ貿易、支那ノ恬靜、外寇ノ患アラズ、又之アルモ邊塞所ノ邦國ハ皆ナ此目的ヲ防禦スルニ足ルト信スル以テ天然ノモノトセリ、ロードノ航海、或ハ夷虜野蠻ノ性法上ノ自由ニ於ルカ如キ是レナリ、然リ而ノ其中ニテ又之ヲ概スルニ、君主ノ佚樂宴遊ハ專制國ノ目的ニシテ、君主ノ榮譽ト一國ノ榮譽トハ立君政ノ目的タリ、波蘭ハ素ト人民各自ノ不羈自由ヲ以テ目的ト定メタリシカ、終ニ其弊ハ全國、壓制ノ果實ヲ結ヘリ、人民ニテ法律ヲ海ヲ隔テ、一國アリ、政事ノ自由ヲ以テ國憲直接ノ目的ト為セリ、今其自由ノ淵源スル根理ヲ講究スヘ

シ、果シテ其根理ノ既ニ明確ナルヲ得ハ、乃チ此國ノ自由ヲ以テ完全至備ノモノト謂フヲ得ヘキナリ

按英

國憲ノ中ニ於テ政事ノ自由ヲ目的トスルモノヲ發見スルハ敢テ至難ノ事ニアラス、苟モ其成立スル所ニ就テ認メ得ル時ハ直ニ之ヲ領會シテ更ニ之ヲ遼速ナル區域ニ向テ摸索スルヲ要セサルヘシ

第六回 英國ノ國憲ヲ論ス

各政府ニハ三類ノ權アリ、一ニ曰ク立法權、二ニ曰ク萬國ノ公法ニ屬スル機務ヲ掌トル處ノ行政權



三ニ曰ク内國ノ治法ニ属スル機務ヲ理ムル處ノ行政權、是レナリ

第一權ハ君主或ハ宰官タル者之ニ頼テ以テ一時若クハ恆久ノ法律ヲ制定シ、或ハ既制ノ法律ヲ改正シ或ハ之ヲ廢止ス、第二權ハ頼テ以テ和戰ヲ決シ使節ヲ送迎シ、人民ヲ保護シテ安寧ナラシメ敵國外患ヲ防禦ス、第三權ハ頼テ以テ罪犯ヲ懲罰シ或ハ人民、彼我ノ間ニ起ル處ノ爭論ヲ裁決ス、下文ニ於テハ此第三權ヲ司法權ト稱シ第二權ヲ行政權ト稱スハ此所謂人民ノ政事ノ自由トハ各人其身ノ安固ナルヲ覺悟スル心神ノ穩泰是レナリ故ニ臣民ニ此自由ヲ

保持セシメント欲セハ須ラク政府ノ結構ヲ整理シ、甲人ヲシテ乙人ヲ恐レシムルヲナク、人民皆ナ同等ノ地位ニ在ルカ如キヲ要ス

若シ立法、行政ノ二權ヲ併セテ一頭ノ君主、或ハ一局ノ宰官ニ掌握セシムルハ、執權者カ恣ニ壓制ノ政ヲ行ハシカ爲メニ壓制ノ法律ヲ制定スルモ料リ難シト云フ畏懼心、忽チ人民ノ胸裏ニ發動スルカ故ニ、自由ハ存立スルヲ得サルナリ

若シ司法權ヲ割テ之ヲ立法、行政二權ノ樊籬ヲ脱セシメサルハ自由ハ又存立スルヲ得サルナリ、譬ヘハ司法權ヲ以テ立法權ニ合併スルトセシカ、然ルハ

ハ公義正直ヲ達スル處ノ法官ハ乃チ法律ヲ制定スル所ノ議官タルカ故ニ、人民ノ性命ト資産トハ專裁ノ魚肉ト爲ラン、又司法權ヲ以テ行政官ニ兼任スルトセンカ、法官タルモノ、舉措ハ忽チ專暴ニ渉ルヘキナリ

貴族ナリ庶民ナリ一個ノ人、若クハ一局ノ人ニ委任スルニ三權ヲ以テシ、之ヲシテ法律ヲ制定シ其制定シタルモノヲ施行シ、且ツ以テ人民ノ訴訟ヲ聽斷セシムルニ至ラハ、百事休ヲ解キテ名狀マ可ラサルニ至ラン

我カ歐洲ノ立君國ニ於テハ、人民概レテ立憲ノ治化

ニ噉喙セリ、他ナシ、國君タルモノ若シ立法、行政ノ二權ヲ併有スルヲアレハ必ス司法權ヲ以テ臣民ニ掌握セシムルカ故ナリ、見サルヤ、彼ノ土耳其ニ於テハ支那ノ國帝ノ一身此三權ヲ併有スルヲ以テ人民ハ常ニ暴政ニ苦シノラレテ、悲憤愁憂ノ聲道ニ絶エサルヲ

伊太利ノ共和邦ニ於テハ此三權ヲ分割セサルノ故ヲ以テ、人民ノ自由ハ我カ立君國ニ比スレハ大ニソノ度數ノ低下ナルヲ覺ヘタリ、故ニ彼ノ政府ハ己ムヲ得ス土耳其ノ如キ暴制ヲ用ヒテ以テ其政ヲ維持セリ、彼ノ都察官ニ出ツノ猛威アルト、告發者ノ何時

ニ拘ハラス石獅ノ口ニ人ノ罪惡ヲ訐クヘキ文書ヲ  
投入スル<sup>第五卷トヲ見テ其然ルヲ知ルハシ</sup>  
試ニ斯ル共和政ノ下ニ在ル人民ヲ省察スヘシ、ソノ  
情態ノ憫諒スヘキ實ニ何如ソヤ、宰官ノ一体ハ立法  
官ノ資格ヲ得テ以テ法律ヲ制定スヘキ全權ヲ有シ  
而ノ又已カ制定セル法律ヲ施行スル所ノ地位ニ居  
ルモノモ亦宰官ノ一体ナリ、故ニ若シ彼此全議協力  
スルヲ得ハ國家ヲ掠奪シテ之ヲ私有ト爲スモ難キ  
ニアラス、況ヤ司法權モ其掌握中ニ在ルヲ以テ、理非  
ヲ顛倒シテ私民ヲ殘害スル極メテ容易ナルニ於テ  
ヲヤ

此國ハ共和ノ制タルヲ以テ其實ハ一國ノ政權ヲ一  
局ニ萃會スルト雖モ外面ノ現像ハ專制ノ勢焰甚ク  
猛烈ナラサルカ如シ、然レ人民ノ夫ノ專制ノ作用  
ニ苦シムニ至テハ毫モ真ノ獨裁政ニ異ナルヲ无シ  
共和邦ニシテ尚ホ然リ、況ヤ專權ヲ逞クスルヲ以テ  
目的トスル所ノ列國ノ帝王ニ於テオヤ、其常ニ各局  
ノ宰官ト國家ノ大吏トノ職掌ヲ舉テ、之ヲ一身ニ收  
攬親裁セント企圖シテ怠ラサルモ亦宜ヘナリト謂  
ハサルヲ得ス

伊太利諸邦ノ世襲貴顯政ハ其專橫ノ狀稍東洋專制  
國ノ君權ニ遜ル所ナキニアラス、何ソヤ、蓋シ伊太利

ノ共和邦ハ當路者ノ數衆多ナルカ故ニ彼此互ニ其權ヲ節制シテ寛和ナラシメ且貴族ノ一体ニテ常ニ同一ノ治術ニ出テス時トシテ其中ニ異議ヲ生シ殊ニ各種ノ裁判廳アリテ互ニ其權衡ヲ平持シテ偏重偏輕ノ弊ナカラシムルニ由テナリ即チ勿厯西ノ共和政ノ如キハ立法權ヲ議政官ニ歸シ、行政權ヲプレガタイニ歸シ、司法權ヲクハ一ラシシヤニ歸シテ各個獨立ノ体ヲ爲セリ、然レ其惡弊ヲ免レサル所以ハ三權各其官廳ヲ異ニスト雖モ其人ヲ問ヘハ彼此皆ナ貴顯ノ一族ニ屬セサルハ無ク、之ヲ合シテ論スレハ一族ヲ以テ一國ノ政權ヲ專有スルニアラサル

ハナキカ故ナリ

司法權ハ之ヲ常任不易ノ議政官ニ委任スヘカラス、必スヤ〔雅典ニ於ルカ如ク〕人民ニ於テ毎年幾回ノ撰舉ヲ行ヒ、其任ニ當リシ者ヲシテ法律上ノ規則ニ從テ之ヲ執行セシムヘシ、而シテ其裁判廳ハ事情己ムヲ得サルノ時間ニノミ之ヲ開設スルヲ要ス

法制能ク然ルヲ得ルハ人類ノ最モ恐惧スル處ノ司法權ハ、之ヲ一種ノ族屬、若クハ一定ノ職業ニ限テ占有セシメシテ司法權ノ威勢ハ恰モ消失セルカ如ク而シテ法官ハ常ニ人民ノ耳目ニ觸レサルヲ以テ人民ハ裁判廳ヲ恐ル、モ敢テ裁判官ヲ恐レサルヘ

シ  
重大ノ刑獄アルニ臨テハ、糾弾ヲ受クル者ヲシテ法律ニ違ハサル以上ハ自己ニ法官ヲ撰擇スヘキ特准ヲ得セシメサル可ラス、假令然ルヲ得サルモ衆多ナル法官ノ中ヨリ數人ヲ除キ去リ、所殘ノ法官ヲ以テ自己ニ撰擇セシ者ト爲スノ權利ヲ與ヘサルヘカラス  
立法、行政ノ二權ハ之ヲ常任ノ宰官ニ委任スルヲ宜シトス、蓋シ此二權ハ人民ノ私事ヲ料理スルモノニアラス、立法權ハ一國ノ公意ヲ表シ、行政權ハ此公意ヲ奉行スルモノナレハナリ

裁判廳ハ時ニ開閉シテ常任ノモノタルヲ得スト雖モ、其斷案ニ至テハ必ス常ニ法律ノ明文ニ符合シテ一定不易ノモノダラサル可ラス、若シ此斷案ヲシテ法官、一個ノ存意ニ在ラシモンカ、苟モ然ルハ人民ハ此社會ニ生息スルモ其負擔スヘキ義務ノ何物タルヲ知ラサルヲアルニ至ラン  
法官ハ又必ス犯人ト同一ノ身分、即チ其同族タルヲ要ス、是レ犯人ヲシテ己レヲ虐待スヘキ異族ノ手ニ陥ラサルヲ安心セシモンカ爲メナリ  
若シ立法權ヨリ行政權ニ許スニ人民、其行爲ヲ保證スヘキ抵當ヲ出シ能フモノヲモ禁獄スルノ權ヲ

以テスルハ、人民ノ自由權ハ忽チ失墜スヘシ但シ  
カノ重罪ヲ糾訊スルニ遲滞ナカラシメカ爲メ、人  
民ヲ抑留スルカ如キハ、全ク一時法律ノ作用ニ屈服  
セシムルモノニシテ其實ハ敢テ自由權ヲ失シタル  
ニ非サルナリ

然リト雖モ若シ立法官ニ於テ密カニ國家ニ對シテ  
反逆ヲ圖ルモノ、或ハ敵國ニ内通スルモノ之アル  
ヲ疑念スルハ、一定ノ期限ヲ立テ、行政官ニ許ス  
ニ其疑フヘキ人物ヲ禁獄スルノ權ヲ以テス可シ此  
ハ是レ永久自由權ヲ保持センカ爲メニ一時故ラニ  
之ヲ損失スルモノナリ

雅典ノイホリー及ヒ勿屈西ノ都察官ハ俱ニ專權ノ  
宰官クリ此專權ノ宰官ニ換用スヘキ良圖ハ唯此一  
法アルノミ

自由ノ國ニ在テハ各人皆ナ行事ノ自由ヲ得ルモノ  
ト認ムルカ故ニ各人自ラ治者タルノ資格アリ從テ  
立法權ハ之ヲ人民一体ノ掌握ニ歸セサル可ラス、然  
レ人民ノ衆多ナル、縱令、小國ナリト雖モ萬々之ヲ  
實踐親行ス可ラサルカ故ニ人民ノ親ヲ爲シ能ハサ  
ルノ機務ハ之ヲ代議士ニ委任シテ爲サシムルヲ以  
テ其宜シキヲ得ルモノトス

格段ナル府邑ノ住民カ其府邑ノ利害得失ヲ熟悉ス



ルハハ過カニ他府邑ノ住民ニ優リ、從テ其府邑ノ住民ノ才器ヲ鑑定スルモ亦他ノ府邑ノ住民ヨリモ明敏ナリ、此故ニ立法府ノ議員タルモノハ之ヲ國民ノ全体ヨリ撰舉スルハ無ク、一府一邑ノ區域ヲ限リテ其住民ヲシテ其住民ヲ撰舉セシムルヲ以テ尤當ナリトスヘシ

代議士ノ大利アル所以ハ公事ヲ商議スルノ器量ノルニ在リ、然ルニ人民總体ノ如キ大衆ヲ以テセハ決シテ其任ニ堪ヘサルヘシ、是レ即チ民主政ノ大不便ノ一ナリ

代議士ハ己ニ司撰者タル人民ヨリ大体ノ教令ヲ受

得セルカ故ニ、更ニ百事ノ節目ニ至ルマテ悉ク之ヲ人民ニ諮詢スルハ夫ノ日耳曼ノ國會ニ於ルカ如キヲ須要トセス、理論ニ於テハ日耳曼ノ國會議員ノ發言ヲ以テ之ヲ國民ノ輿論ト見做シテ允實ナルヘシト雖モ其弊ヤ議論大ニ遷延シテ公事舉ラス、且ツ一人ノ委員ニ一局ヲ支配セシムル權柄ヲ得セシムルヲ以テ、若シ時非常ニ際シ、事緊急ニ屬スルモノアルニ方テハ、一人ノ私意ニ妨ケラレテ政府ノ活機ヲ停止スルニ至ラン

シツデニ一氏曰ク委員ヲ以テ人民一体ノ代議士ト爲スハ和蘭ニ於ルカ如ク、應ニ一國ノ司撰者ニ對

シテ其責任ヲ有セシムヘシト、是レ至當ノ論ナリ、然レモ英國ノ如キハ議員タルモノ一個ノ府邑ノ代議士タルニ過キサルヲ以テ、其勢和蘭ト同視スヘカラサルモノアリ

各區ノ住民ハ卑賤ニシテ一己ノ意思ヲモ有セサルカ如キモノニ非サルヨリハ、都テ其代議士ヲ撰舉スヘキ投票權ヲ得サル可ラス

古ノ共和政ニ概シテ一ノ大過失アルヲ免レサリシ所以ハ機畧ヲ要スヘキ事務ヲモ之ヲ舉テ人民一休ノ商議決定スヘキノ權利ト爲セシ是レナリ、人民ハ固ヨリ之ヲ斡旋シ能フハキ器量ニアラサルカ故ニ、

ソノ國事ニ關與スルノ限畧ハ夫ノ代議士ヲ撰舉スヘキ一事ニ止マルヲ至當ナリトス、蓋シ人民ハ他人ノ利器ヲ熟知シテ其鑑定ニ一點ノ誤ナキハ期ス可ラスト雖モ、己カ撰舉ヒシ所ノ人物ノ能否ヲ知ルハ他人ノ撰舉セシモノヨリモ更ニ正確ナルノ得ヘキヲ以テナリ

人民ノ代議士ハ決シテ行政權ヲ委任スルカ爲メニ之ヲ撰舉ス可ラス、抑代議士ハ法律ヲ制定シ或ハ己ニ制定セシ所ノ法律ノ施行其當ヲ得ルヤ否ヤヲ監察スルニハ堪能ナルモノト雖モ、行政官ノ職務ニ至テハ局外ノ人ノ敢テ擔當スヘキモノニアラサルト

凡ソ一國中ニハ必ス門地、富有、若クハ名爵ニ依テ自  
餘ノ人民ニ卓絶シタル種族アルヘキナリ若シ、此一  
族ヲ以テ平民ト同視シ平民ト同一ノ發言ヲ爲サシ  
メンカ、平民ノ輿論多クハ此一族ノ利益ニ反對スル  
ヲ以テ、此一族ハ常ニ平民ヲ仇視シテ其利益ヲ謀ラ  
ス、之カ爲メニ人民ノ自由權ハソノ支配スル處トナ  
ルヘシ、故ニ貴族ノ立法權ニ關與スル處ノ區域ハ平  
民ト其方向ヲ殊ニシテ他ノ利益ニ在ラント要ス、  
何ソヤ即チ貴族一体トナリテ人民ノ專恣暴戾ニ流  
ル、ヲ抑制スヘキ權利ヲ有シ、恰モ平民カ貴族ノ侵

凌傲慢ニ抵抗スルノ權利ヲ得ルト同一般ナル是レ  
ナリ

然ルヲ以テ立法權ハ之ヲ貴族ノ一体ト人民ノ代議  
士トニ分掌セシメ、各局別ニ集會ヲ開キ別ニ商議ヲ  
ナサシメ、各異ノ意見ヲ以テ各異ノ利害ヲ保有セシ  
ムヘキナリ

前ニ論セシ處ノ三權ノ中ニテ、司法權ハ頗ル無著ノ  
間權ニ屬シ、其實ハ唯他ノ二權アルノミ、而シテ他ニ一  
ノ權柄アリテ此二權ヲ調整セサル可ラス、乃チ貴族  
ヨリ成ル處ノ立法官ヲ以テ最モ能ク此任ニ適當ス  
ルモノトス

而ノ此特准ナルモノハ平民ノ舉テ之ヲ羨妬忌嫌スル所ニシテ、不羈ノ國ニ在テハ恆ニソノ危険ヲ免レサルナリ

且ツ世襲ノ一族ハ、唯自己ノ利益ニノミ矚目シテ平民ノ利益ニ注意スルヲ忘ル、ノ弊ナキヲ保テ難シ、故ニ國需ニ係ル法律ノ如キ貴族ヲ利誘シテ特殊ノ便益ヲ得ヘキ議案ニ於テハ、其立法權ヲ制限シテ單ニ下局ノ議案ヲ否斥スルノ權ノミナラシメ決シテ

之ヲ議定スルノ權ヲ與ヘサルヲ以テ事ノ當ヲ得ルモノトス

議定ノ權トハ該局ノ專權ヲ以テ議案ヲ制定シ、或ハ他局ニテ制定シタル議案ヲ改正スルノ權利ヲ謂ヒ、否斥ノ權トハ他局ニテ議定シタル議案ヲ廢止スルノ權利ヲ云フ、猶ホ羅馬ノトリビエーン官ニ髣髴タリ、且否斥ノ權ヲ有スル部局ニ於テハ從テ他局ノ議案ヲ允准スルノ權ヲ兼テ有スト雖モ、之ヲ允准スルモノハ唯否斥ノ特權ヲ用ヒサルニ過キスシテ故ラニ之ヲ許可スルニアラス即チ其特准中ノ一ナリ行政ノ權ハ君主ノ掌握ニ歸セサル可ラス、蓋シ内閣

ノ機務ハ快速ノ勢ナカルヘカラス、快速ノ勢ハ之ヲ執行スルモノ少數ニアラサレハ得ヘカラサルヲ以テナリ、之ニ反シテ立法權ニ屬セル事務ニハ之ヲ議定スルモノ多數ニアラサレハ則チソノ完全ヲ得難クシ

若シ其國君主ヲ戴カス、行政權ヲ舉テ之ヲ立法官ニ於テ拔擢シタル一定ノ人負ニ委任スルハ、乃チ一人（按）立法官ニシテ時トシテハ二權ヲ兼有シ、然ラサルモ常ニ之ヲ兼有スルヲ得テ人民ノ自由權ハ忽チ滅絶ニ歸セン

若シ立法官、散會休息ノ時日、長久ニ渉ルカ如キニ至

ル時ハ、己ニ立法官ノ議定スヘキ機務アラサルニ由ルナルハシ是レ國家無法ノ頽勢ニ陷ルノ時トリ或ハ又立法官ノ議定スヘキモノヲモ行政官ニテ之ヲ議定スルニ由ルナルハシ是レ專制ノ政府トナルノ時ナリ必ス其一ヲ免レサルモノニシテ、遂ニ人民ノ自由權ハ滅絶ニ歸スヘシ

之ニ反シテ若シ立法官會議ノ時日、長久ニ渉リテ之ヲ解散セサルカ如キ時ハ代議士タルモノ當ニ鞅掌ニ堪ヘサルノミナラス、行政官ノ權限ヲ削殺スルヲ其度ヲ過ギ、從テ行政官ヲシテ其職ヲ盡スノ念ヲ疎薄ナラシメ、唯其特典ヲ扞禦シ、行事ノ權利ヲ主張スル

ノミニ其心カヲ費サ、ルヲ得サラシムルニ至ラシ  
ムヘシ、是レ亦害アリテ益ナキナリ  
若シ又、立法官ヲシテ恆久集會シテ解散セサル者ト  
爲スルハ、代議士ニ死亡ノモノアレハ時々新員ヲ撰  
テ其缺ヲ補ハサレハ之ヲ維持スル能ハス、果シテ然  
ラハ若シ立法官ノ操守、一タヒ頹壞スルアラハ、則チ  
復タ救回ス可ラサル弊害ヲ醸ス、必然ナルヘシ是レ  
立法官ハ常ニ新陳交替セサル可ラサル所以ナリ○  
斯ノ如キハ假令人民ハ此回ノ代議士ヲ以テ其心  
意ニ滿タストスルコトアルモ、再回ノ會議ニ於テハ其  
意ニ中リタルモノヲ撰舉スル希望ノ心ヲ懷クヘキ

ナリ、若シ然ラスシテ立法官ヲシテ始終同一ノ人物  
ヨリ成ラシノナハ、議員ノ操守一タヒ頹壞スルキハ  
之ヲ如何トモナス可カラサルヲ以テ人民ハ己ニ其  
望ヲ良法美制ニ絶チ絶望ノ結果ハ終ニ激シテ暴動  
ニ及ハサレハ、必ス無氣無力ノ情態ニ陥ルノ外ナカ  
ラン

立法官ハ親ラ集會ヲ爲ス可ラス、是レ立法官ハ議員  
集會ノ上ニアラサルヨリハ一局ノ公意ヲ表シ能ハ  
サルモノタレハナリ、何トナレハ全員一決ノ上、集會  
スルニアラサレハ其一部ハ集會シ一部ハ集會セサ  
ルヲ以テ、其集會シタル一部ヲ着テ真ノ立法官ト做



スヘキヤ、將タ集會セスシテ家ニ在ル所ノ一部ヲ着  
テ真ノ立法官ト做スヘキヤ、之ヲ甄別スヘカラサル  
ヲ以テナリ○且立法官ニ自ラ散會スルノ權利ヲ得  
セシムルハ或ハ常ニ集會シテ解散セサルニ至リ  
遂ニ行政官ノ權限ヲ侵犯蠶食シテ國家ノ大難ヲ釀  
成セン、殊ニ立法官ヲ集會セシムルニハ一年ノ内ニ  
於テ恰當ナル時候ト否ラサルモノアリ、此等ノ故ヲ  
以テ之カ集會ノ時ヲ定メ之カ長短ヲ極ムルカ如キ  
ハ、行政官ノ權ニ任セテ、其悉知セル國家ノ形勢ト事  
情ノ緩急ニ應シテ調整セシムルヲ允當ナリトス  
若シ行政官ヲシテ立法官ノ侵犯ヲ抑止スルノ權ヲ

有セシノサルハ、立法官ハ其欲スル處ニ從テ恣ニ  
威權ヲ僭奪シ、他ノ諸權ハ漸クソノ滅亡スル處ト爲  
リテ忽チ獨裁專制ノ一局トノラン  
之ニ反シテ若シ立法官ニ行政官ヲ束縛スヘキ權ヲ  
與フルハ大ニ事ニ害アリトス○抑機務ノ施設ハ自  
ラ天然ノ區域アリテ之ヲ束縛スルハソノ利益ニア  
ラサルナリ、然ルヲ況ヤ行政官ハ常ニ瞬間ニ運爲セサ  
ルヘカラサル機務ノ起ルアルニ於テオヤ、夫ノ羅  
馬ノトリビュン官ノ如キハ立法權ヲ抑制セシノミ  
ナラス、併セテ行政權ヲモ抑制セシニ由テ無量ノ弊  
害ヲ生シタリ、實ニ彼ノ政體ノ失錯ト謂フハシ

然レ氏若シ自由ヲ尚フ邦國ノ立法官ニシテ、行政官  
ヲ抑制スルノ權ヲ有セサルハ、須ラク行政官ノ法  
律ヲ施行シタル景況ヲ監察檢査スルノ權利ナカル  
可ラス、是レ此國英國ノ政體ノ古ノクレート及ヒ斯巴  
爾達ニ優ル所以ニシテ、カノクレートノコスシ行政  
官及ヒ斯巴爾達ノイホリ行政ニ至テハ、嘗テ其施  
行セル機務ニ就キ其情實ヲ報告セシメナカリシナ  
リ  
施行シタル法律ヲ檢査シ、之ニ由テ如何ナル效果ヲ  
得ルモ立法官ハ決シテ行政權ノ委任ヲ得タル人物  
ヲ糾弾シ、或ハ其行爲ヲ譴責スルノ權利ヲ有ス可ラ

ス、行政官主ノ身体ハ之ヲ省テ神聖犯スヘカラサル  
モノトスルヲ要ス、是レ立法官ヲ抑制シテ專横ニ至  
ラシメサルハ國家ノ利益タルヘキニ若シ君主一ト  
タヒ之力爲メニ糾弾譴責セラル、一アルハ立法  
官ノ專横ノ爲メニ人民ノ自由權、忽チ滅絶ス可ケレ  
ハナリ

茲ニ於テ其國ハ未タ無限ノ自由ヲ得シモノニアラ  
スト雖モ、己ニ立君ノ政體ニアラスシテ一種ノ共和  
政ト變セサルヲ得サルヘシ、然レ氏行政官ノ主宰ハ  
奸臣邪黨ノ慫慂附和スルモノアルニアラサレハ臣  
民トシテハ法律ノ慶ニ頼ラサルハ無シト雖モ、宰相

ノ位地ニ在テハ之ヲ嫌忌スルカ如キ政權ヲ濫用シ  
能ハス立法官ハ直ニ行政官ノ主宰ヲ糾弾シ能ハサ  
ルモ其君心ヲ蠱惑スル奸吏ヲ審問懲罰スルヲ得ル  
ナリ、是レ此國ノ政府ハグニードスニ勝ル所以ナリ、  
グニードスノ法律ハアミモ子ス年々人民ニテ撰ニ  
命シテ解任ノ時ニ方テ其責任ヲ盡セシヤ否ヤヲ報  
告セシメシナキヲ以テ彼國ノ人民ハ曾テ受ケ得  
タル損害ヲ回償スルノ期ヲ得サリシナリ羅馬ニ於  
テハ、宰官  
ノ任期、既ニ滿ツルハ在職ノ時  
ノ無狀ヲ糾弾スヘキ法律アリ  
之ヲ擬スルニ司法權ハ之ヲ立法權ノ一部ニ合併ス  
ヘカラサルノ理アリト雖モ、罪人ノ利害ヲ審考熟察

スルハ三則ノ變例ヲ用ヒサルヲ得サルヲ見出  
スヘシ

貴戚名族ハ常ニ平民ノ羨妬ノ歸スル處ナレハ、若シ  
平民ヲシテ貴戚豪族ヲ糾弾セシムルハ法官ニ偏  
頗ノ判斷ナキヲ保チ難シ、故ニ自由ヲ重スル邦國ニ  
於テハ極メテ貧賤ナル臣民ト雖モ其同族ニアラサ  
ルヨリハ糾弾ヲ受ケサルノ特准アリ若シ貴族ヲシ  
テ平民ノ鞠訊ニ從ハシムルハ、此特准ハ忽チ消滅  
スヘシ、此理アルヲ以テ貴族ハ己カ同族ヲ以テ成ル  
處ノ立法官ノ一局ニ出テ、其糾弾ヲ受ケ、普通ノ法  
院ニ出サルヲ允當ナリトス

抑法律ノ性タル這ノ一點ニ於テハ極メテ明察敏聰ナルモ那ノ一點ニ於テハ又暗昧ナルヲ免レサルニ依リテ動モスレハ嚴厲ニ過クルノ弊アリ然リ而ソ法官タルモノハ前ニ論セシカ如ク唯法律ノ明文ヲ出納スルノ鑿舌ナルノミニテ始終之ニ恪遵シテ敢テ私ニ其作用ノ寬嚴ヲ調停スヘキ器量ヲ有スルモノニアラス故ニ前條ノ場合ニ於テ必須ノ法院ナリト辯論セシ處ノ立法官ノ一部<sup>上</sup>院ハ乃又此一事ニ於テモ實ニ欠クヘカラサル法院ト爲ルナリ○蓋シ法律ノ文章ヲ寬和ナラシメ法律ノ爲メニ法律ヲ調停スルハコノ無上ノ一官ニ属セサルヲ得サレハナリ

行政ノ大任ニ擔當スル所ノ臣民ニシテ公事上ノ措置ニ因テ人民ノ權利ヲ侵犯シ而シテ其罪科ハ尋常司法官吏ノ得テ責罰シ能ハサルカ或ハ責罰シ能フモ之ヲ爲サハルカ如キモノアランモ未タ知ルヘカラス然ルニ法典ニ於テ立法官ハ刑獄ノ事ニ與ルヘカラス況ヤ之ヲ告發スル處ノ原告ナルモノハ即チ代議士ノ本体タル人民ナルニ於テオヤ故ニ立法官局<sup>下</sup>ハ之ヲ彈劾スルノ權アリテ之ヲ裁判スルノ權ナシ○己ニ之ヲ彈劾スルノ權アリトスル時ハ果シテ那ノ法院ニ向テソノ彈狀ヲ捧ケント欲スルヤ或ハ其卑屬タル尋常ノ法院ニ赴キテ自ラ人民ノ品格ヲ墜

サントスヘキ耶、殊ニ司法官ハ素ト人民及ヒ立法官ノ撰舉ニ由テ其地位ヲ占ル所ノ人物ヨリ成ルモノナルカ故ニ人民ノ威勢或ハ法院ヲ壓倒シテ其操守ヲ破ラシムルノ憂アル可シ、於是カ人民一体ノ威權ヲ維持シ臣民各自ノ安固ヲ保全センカ爲メハ、人民ノ代議士タル立法官ノ一部ヲシテ其彈狀ヲ責ラシテ之ヲ人民ト各異ノ利害ヲ有シ各異ノ性情ヲ保ツ處ノ貴族ヲ表スル立法院<sup>上</sup>院ノ一部ニ控告スルヲ必要ナリトス

此政府ノ能ク古ヘノ諸共和政ニ優レル所以ノモノ實ニ此一事ニ在リ、古ヘノ共和政ノ人民ハ時ニ法官

トナリ時ニ彈劾者トナリテ斷ヘス其弊ニ告シノリ行政官ハ議案ヲ否斥スル<sup>一</sup>ニ於テ立法權ニ關與セサル可ラス否ラサレハ行政官ノ其特權ヲ褫去セラ<sup>ル</sup>、ヤ更ニ他日ヲ俟タサルヘシ、且ツ立法院ニ於テ政權ノ一部ヲ僭奪スルモ、亦齊シク終ニ行政官ノ滅亡ト爲ルヘシ

倘シ君主タル者議案ヲ決定スルノ權ヲ以テ、立法權ニ關與スル<sup>片</sup>ハ忽チ人民ノ自由ハ失墜スヘシ、然レモ君主ハ當ニ其特權ヲ維持センカ爲メニ立法權ニ關與セサルヘカラサルモノアリ、之ヲ達シテニツナカラ其弊ナキモノハ乃チ否斥ノ一權ヲ有スルニ在

羅馬ノ政体ノ變革セシ所以ノモノハ、行政權ノ一部ヲ有スル處ノ元老院ト、立法權ノ一部ヲ有スル處ノ宰官ト、孰レモ否斥ノ權ヲ有スルヲナク、之ヲ全ク人民ノ掌握ニ歸セシニ由レリ  
斯ニ論スル所ノ政府ノ大綱ヲ細釋スレハ、立法官ハ上下ノ二局ヨリ成リ、各自ニ否斥ノ特權ヲ有シテ交モ相制シ、而シテ二局ノ俱ニ行政官ニ箱束セラル、ハ猶ホ二局カ行政官ヲ箱束スルカ如キ組織ヨリ成ルニ在リ

此等ノ三權ハ交相制止シテ鼎立ノ勢ヲ爲シテ相動

カサルヲ旨トス、然レハ人事ハ絶エス運行シテ止マラサルヲ以テ、一國ノ機務ニ於テモ其勢進動セサルヲ得ス唯ソノ進動ノ際ニ於テ能ク鼎峙ノ平ヲ失セサルヲ要スルノミ

行政官ノ立法權ニ關與スル處ハ唯否斥ノ一事ニ止マルヲ以テ、敢テソノ評議討論ニ關與スヘカラサルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ、何トナレハ行政官ハ常ニ立法官ノ議定セルモノヲ否斥シ得ルノ權アルカ故ニ、苟モ行政官ノ意見ニ逆フタル議案ハ之ヲ決定スルヲ拒ミ得ヘキヲ以テ、行政官ニ於テ自身ニ議案ヲ出スヲ要セサルナリ



古ハノ或ル共和政ノ如キハ、一國ノ人民悉ク集會シテ公事ヲ議定セルカ故ニ其混亂雜沓ヲ恐レテ爲ノニ、行政官ハ人民ト共ニ議案ヲ出シテ之ヲ討論セシ  
「アリ、是レ事實、己ムヲ得サルニ出テシモノナリ  
若シ行政官ニ於テ國帑ヲ徵收スルノ議案ヲ承允スルノ外制定スル「アルニ至ラハ行政官ハ制法ノ眼目タル一事ニ於テ立法權ヲ僭有スルカ故ニ、人民ノ自由ハ直ニ滅絶ニ歸セン

若シ立法官ニテ國費ノ額數ヲ議定スルニ方テ、之ヲ毎年ニ於テセスシテ恆久不易ノモノト爲ス片ハ、行政官ハ既ニ立法官ニ委頼スル所ナク、殊ニ一タヒ此

權ヲ永久ニ保持スル以上ハ自ラ之ヲ掌握シ若クハ之ヲ他人ニ委任スルニ拘ラス、其弊ヤ到底人民ノ自由權ヲ失墜セシムルニ至ルヘシ、且行政權ニ委任スル所ノ海陸軍ノ經費ノ如キモ、必ス年々之ヲ議定ス可シ、決シテ之ヲ永久ノモノト爲スヘカラス

行政權ノ暴戾專横ニ趨クヲ防止セシカ爲ノニハ、之ニ委任スル所ノ兵士ヲシテ必ス人民ヲ以テ編制セシノ而ノ人民一般ノ氣象ヲ有セシムハキ「カノ羅馬ノ國初ヨリマリウス帝ノ治世ニ到ル迄ノ如クナルヲ要ス○此目的ヲ得シハ唯ニ策アルノミ、其一ハ軍團ニ編入スヘキモノヲシテ其同胞ノ人民ニ

對シテ品行ノ端正ナルヲ保証セシメシカ爲メ必ス  
充分ノ資産ヲソノ抵當ニ出サシメ、而シテ羅馬ノ制ノ  
如ク一年ニシテ服役ノ期ヲ終ヘルニ在リ其二ハ若  
シ皂隸輿僮ノ如キ賤民ヨリ成ル處ノ常備兵アラハ、  
立法官ノ意見ニ從テ何時ニテモ之ヲ解散スルノ權  
利アラシムルニ在リ而シテ其兵士ハ自餘ノ人民ト俱  
ニ生計ヲ爲シ別ニ堡塞陣營ヲ有セシムヘカラス  
己ニ軍團ヲ設置セル以上ハ宜シク之ヲ行政官ノ直  
隸ト爲シ、立法官ハ間接ニ於テノミ之ヲ支配スヘシ  
是レ軍機ハ議論ノ事ニアラスシテ運行ノ事ニ屬ス  
ルモノナルヲ以テ、事理ノ然ラサルヲ得サル所ナレ

ハナリ

夫レ勇武ヲ尚テ怯懦ノ賤ミ恪謹ナルヲ忌テ慄快ナ  
ルヲ好ミ、膂力ヲ先ニシ智術ヲ後ニスルハ人類ノ免  
ルヘカラサル性情ニシテ兵士ノ議官ヲ蔑視シテ己  
カ將校ヲ畏敬フルハ其常ナルヲ以テ、其怯弱ト視爲  
ス處ノ立法官ノ命令ハ自ラ之ニ遵從スルヲ厚カラ  
ス、從テ立法官ハ兵士ヲ命令スルニ堪ヘサルヘシ  
○然ルヲ以テ若シ軍團ヲシテ全ク立法官ノ隸屬ト  
爲スベハ直ニ兵隊爲政ノ害ヲ招クニ至ルヘシ、固ト  
ヨリ立法官ニテ軍團ノ支配スルモ其弊ヲ見サルノ  
類例ナキニダラスト雖モ、是レ全ク軍團ヲ解散シテ

一地ニ屯集セシノサルカ軍團ハ各個ノ兵隊ヨリ成  
リ、各個ノ兵隊ハ各個ノ州郡ニ隸屬セルカ或ハ都城  
之制堅固ニシテ天然ノ要害ヲ以テ之ヲ防禦ニ更ニ  
常備兵ヲ置クヲ要セサルカ必ス一二僥倖ノ事情ニ  
因縁スル所ノ變格ニシテ以テ定則ト爲ス可ナル  
ナリ○譬ハハ和蘭ノ如キハ需要便利ノ府邑ニ兵隊  
ヲ駐屯スルヲ許サ、ルニ由リ、若シ兵隊ニテ逆意  
ヲ企ルキハ直ニソノ糧道ヲ絶テ飢渴ニ苦シマシ  
ムルカ故ニ勿レ西ニ於ルヨリモ更ニ一層ノ安全ヲ  
加フルモノトス

タシトスノ著セル日耳曼人ノ風俗記ハ甚タ珍重ス

ハキ書ナリ之ヲ讀テ始メテ英人ハ此人種ヨリソノ  
政体ノ精神ヲ借用シタルヲ識得スハシ、何ソ料ラ  
ン其美制良法ノ洙泗ハ曾テ日耳曼ノ深山幽谷ノ中  
ニ淵源セシモノナルヲ

之ヲ要スルニ人事ニ終焉ノ期無キヲ得ルハ未ダ曾テ  
アラサルナリ斯ニ論スル處ノ邦國ノ如キモ將ニ其自  
由ヲ失シテ斃仆ニ就クノ日アルヲ遁シ難カラシ、彼  
羅馬、スバルタ、カルテ、デノ全盛ハ今日何ノ處ニ於  
テ其踪跡ヲ見ルヘキヤ抑國家ノ滅亡スルハ立法官  
ノ頽壞セルヲ更ニ行政官ヨリモ甚シキ時ニアラサ  
ルハ無キナリ

テ自ラ足レリトス  
此一回ニ於テ、記者ハ敢テ他ノ政府ヲ侮視スルノ趣  
意アルニアラス、又彼國ニハ自由ノ全權アルヲ以テ  
敢テ餘國ノ之ヲ僅有スル人民ヲ唆動スルニアラス、  
記者ノ真意、豈肯テ此一點ニアランヤ抑、事物ノ道理  
ト雖モ其度ニ過キタルハ猶ホ希望スル所ニアラス、  
且人類ハ偏極ニ傾クアルヨリハ寧ロ中庸ニ於テ  
常ニ善良ノ果實ヲ結フヘキナリ

ハルリングトンハオシナリ書名ヲ著シテ一國ノ政体

ヲ進動スヘキ自由權ノ極處ヲ講究シタリ然レ氏

ハ自由權ノ真性ヲ知ル完全ナラス、故ニ想像ノ自

由ヲ追蹤シテ其實物ヲ探取シ能ハス、恰モビサンチ

ユム城ヲ望ミ見テ、以テカルスドント認ムルニ異ラ

サリキ按故事ナリ、ビサンチユム城ハボスボルスノ

言フカ如シ左岸ニ在テカルスドントハ右岸ニ在リ、猶ホ左

第七回 記者カ識ル處ノ立君國佛蘭西ヲ論ス

記者カ識ル處ノ立君國ハ、前回ニ論セシ處ノ政体ト

全ク相異ナリテ人民ノ自由權ヲ以テ直接ノ大權ト

ナサス一國、正鵠トスル處ハ臣民ノ光榮ニアリ國家

ノ光榮ニアリ君主ノ光榮ニアルノミ、而カモ此光榮ノ一物ニ依テ以テ自由權ノ精神ヲ發作シ此精神ニ依テ以テ大業ヲ成達シ人民ノ幸福ヲ増進スルヲ猶ホ彼國ノ自由權ノ作用ニ於ルカ如キモノアリ此國ニ於テハ、未タ前文ニ論セシカ如キ國憲ヲ立テ之ニ則トリテ三權ノ基礎ヲ確定セルヲ無ク、又之ヲ分配セシヲ無シ唯各權特別ノ分配法アリ、之ニ從テ多少政事ノ自由權ニ接近セリ、若シ此三權自由ノ區域ニ接近セサルカ如キニ至レハ則チ立君政ハ陵夷シテ專制政ト變ス可キナリ

第八回 古人ノ未タ立君政ノ明解ヲ得サリ

シ所以ヲ論ス

古人ハ曾テ貴顯ノ一族ヲ基礎トシテ結構スル處ノ政府ヲ識得セサリシナリ、況ヤ人民ノ代議士ヨリ成ル處ノ立法官ニ於テオヤ、抑當時希臘、伊太里ノ共和邦ハ、皆ナ各自ノ政体ヲ具有スル府邑部落ニシテ各其人民ヲ城内ニ集會シテ公事ヲ討議セシモノナリ○又羅馬カ未タ自餘ノ共和邦ヲ併吞セサル時ニ方テモ、君主ヲ戴ク所ノ邦土ハ絶無僅有ノヲニシテ、伊太里、瓦爾、西班牙、日耳曼、如キ數多ノ小國ハ、即チ獨少狹隘ナル共和政ニ過キス亞弗利加ノ如キモ一大聯合國ノ治下ニ屬シ、小亞細亞ハ希臘ノ植民地ニ係

リシカ故ニ府邑ノ委員或ハ國會等ノ類例ヲ知ルニ由シ無シ故ニ一頭政府ノ所在ヲ覓ノント欲セハ、莫クニ東洋ノ百兒西ニ赴カサレハ之ヲ見得サリシナリ

然レ氏聯合シタル共和邦アリテ、各個ノ府邑ヨリ委員ヲ出シ之ヲシテ國會ニ赴カシムルノ制度ハ決シテ之レ無シト謂フニアラス、唯今日ノ如キ制度ニ則トリタル立君政ノ曾テ有ラサリシヲ謂フノミ之ニ由テ今日、識得スル所ノ立君政ノ創始ニ追溯スル片ハ、日耳曼人カソノ鼻祖タルハ自ラ明了ナリ、日耳曼人種ハ曾テ羅馬ノ帝國ヲ克服シタルモノニ

シテ、極メテ不羈自由ノ氣象アリタシトスノ日耳曼風俗記ヲ讀テ知ルヘシ、其末夕羅馬ニ捷タサルノ前ハ、國民一處ニ會同シテ公事ヲ議定スルノ例規アリ、然リト雖モ帝國ヲ克服スルニ及テヤ疆土ノ廣大ヲ致セシノミナラス、或ハ諸郡ニ分戍シ或ハ征伐ニ從事シテ、一處ニ定居スルハ甚タ稀ナリ故ニ再ヒ舊慣ニ據ルヲ能ハス、是ニ於テヤ各地ノ人民、各代議士ヲ派出スルヲトナレリ、是レ今日、吾人ノ沐浴スルゴダツクノ政府ノ濫觴ナリ○抑此政体ハ其始ノ貴族、立君ノ二質ヲ兼有セシモノニシテ、平民ハ奴隸トシテ人民タルノ權利ヲ得セシメサルノ弊害アリ、其後世



運ノ開明スルニ從テ平民ニ權利ヲ賦與スルノ詔勅、  
陸續トシテ發行シ、終ニ民權、君權ト貴族、僧侶ノ特權  
ト並立同行シ、調停適當ヲ得テ其果實ハ遂ニ歐羅巴  
各邦ノ政府ヲ結成シテ其存立スル間ハ則チ卓絶、治  
圖トナレリ、夫ノ羅馬ヲ破壊セシ蠻民ノ政府ノ變相  
ヨリシテ、幾ント此人智ノ想ヒ到ラサル處ノ良圖ヲ  
孕マントハ實ニ驚嘆ニ堪ヘサルモノアリ

第九回

アリストートルノ考案

アリストートルノ立君政論ハ未タ其要領ヲ得スシ  
テ徒ニ紛擾ヲ覺フノミ、蓋シ氏カ立君政ヲ五種ニ區  
別セシハ、政體ノ性質ニ從テ之ヲ定メスシテ常ニ君

主ノ賢愚、明暗ノ如キ偶有ノ事實ト、篡奪ノ暴政、或ハ  
世襲ノ暴政ノ如キ外貌ノ形迹ノミトヲ以テ之ヲ判  
決シタレハナリ

氏ハ立君政ノ中ニ百兒西ノ帝國ト斯巴爾達ノ王國  
トヲ并列セリ、知ラスヤ、カノ百兒西ハ專制國ニシテ  
斯巴爾達ハ共和政ナルヲ、氏ノ論ハ之ヲ誤レリト  
謂ハサルヲ得ス  
之ヲ要スルニ、古人ハ一頭政府ニ於テ三權ヲ分配ス  
ルノ理ヲ識得セサリシナリ、宜ナル哉、立君政ノ實相  
ヲ窺ヒ能ハサリシ

第十回 自餘ノ政學家ノ考案

エビリユス王アリバヌハ立君政ヲ寛和ナラシメ  
ト欲シテ共和政ヲ建立シ、其他ニ匡救ノ術アルヲ  
識得セザリシナリ○モロシ人ハ一國ニ二王ヲ置  
キ、之ニ頼テ君權ヲ削弱セント欲シテ却テ國力ヲ削  
弱シ權威ヲ犄角峙立セシメント欲シテ却テ爭鬭擾  
亂ノ端ヲ開ケリ、君權ヲ制限スルノ道ニ通セサルモ  
ノト謂フハシ

一國ニ二王アリシハ斯已爾達ヲ除キテ他ニ之ヲ設  
置セシモノナシ、斯已爾他ニ於テモ二王ヲ置クヲ以  
テ敢テ國憲トナスニアラス、唯ソノ一部トナセシノ  
ミ

第十一回 希臘尚武時世ノ諸王ヲ論ス

希臘尚武ノ世ニ方テ一種ノ立君政ヲ設立セシカ、未  
タ久シカラスシテ滅絶セリ、其憲法ハ、凡ソ技藝、學術  
ヲ發明セシモノ、國家ノ爲メニ汗馬ノ功勞アリシモ  
ノ、或ハ會社ヲ設立シ或ハ人民ニ土地ヲ分與セシモ  
ノ、如キハ、王權ヲ受ケ得テ之ヲ其子孫ニ紹傳シ、以  
テ國王、牧師、法官ノ三職ヲ兼任セリ、是レ乃チアリス  
トールカ所謂立君政ノ五種ノ一ニシテ立君政ノ  
形影ヲ認ムヘキハ唯此一種アルハ、然レ氏政体ノ  
規模ニ至テハ大ニ今日ノ立君政ト其趣ヲ異ニセリ  
此政体ノ三權ヲ分配セルヲ見ルニ、人民ハ立法權ヲ

有シ國王ハ行政權ト司法權ヲ并有スルノ制度ナリ  
之ニ反シテ今日ノ立君政ニ於テハ君主ハ行政權及  
ヒ立法權縱ヒ全部ヲ得サルモ其一部ヲ兼任シテ司  
法權ヲ有セス是レ古今ノ別ナリ

尚武ノ世ノ立君政ハ三權ノ分配甚々其常ヲ失シタ  
リ是レコノ政府ヲ悠久ニ維持シ能ハサル所以ナリ  
蓋シ立法權一タヒ人民ノ掌握ニ歸スルニ及テハ輕  
々ノ任意妄動ヲ以テ直ニ君權ヲ轉覆シ得ルハ各國  
皆ナ然ラサルハ無ケレハナリ

自由ヲ尚フ人民ニシテ立法權ヲ掌握シ而ノ一區域  
ノ中ニ群居スルモノ、惡政ニ感觸スルハソノ四

方ニ散在スル人民ヨリモ一層太甚シキモノナルカ  
故ニ先ツ司法權ヲ委任シテ適當ナル部局ヲ識得ス  
ルヲ以テ法制ノ術ニ巧ミナルモノトス然レモ司法  
權ヲ委任スヘキ部局ハ已ニ行政權ヲ委任シタル一  
人主ヨリモ更ニ有優無劣ノモノナルヲ必要ナリト  
ス○ソノ之ヲ君主ニ委任スルニ至テハ君權忽チ過  
重ニ傾キテ甚々恐懼スヘキカ如シト雖モ然レモ君  
主ハ立法ノ事務ニ關與セサルヲ以テ擅ニ君權ヲ曲  
庇スルヲ能ハス從テ這邊ニ就テ之ヲ見レハ其權赫  
盛ニシテ當ル可ラサルカ如キモ那邊ニ於テハ甚々  
微弱ニシテ恐ルハニ足ラサルモノアリ

當時ニ於テハ未タ君主ノ本職ハ法官ヲ宣命スルニ止リテ親ラ法官ノ職ヲ執行スルニアラサルヲ識得セサリシカ故ニ其治術事理ニ背馳シ、遂ニ人民一頭政府ノ弊ニ堪ヘ能ハスシテ君主ハ皆ナ其ノ放逐スル處ト爲リシ所以ナリ、之ヲ要スルニ希臘人ハ一頭政府ニ於テ三權ヲ分配スヘキ良圖アルヲ知シス唯之ヲ多頭政府ニノミ施行スルモノトシテ一種ノ憲典ト爲セリ

第十二回

羅馬ノ王政論、及ヒソノ三權ノ分配法ヲ論ス

羅馬ノ王政ハ頗ル希臘ノ尚武ノ世ノ王政ニ肖似セ

ル處アリ而シテ羅馬ノ王政ハ其本性、極メテ善良ナリシト雖モ、ソノ滅絶セシ所以ニ至テハ、政体固有ノ虧缺ニ淵源シテ全ク希臘ト其迹ヲ同シクセリ○茲ニ羅馬王政ノ實相ヲ知ラシメンカ爲メニセルフユストルリユス王ヨリタルキン王ニ至ルマテ、國初五王ノ政治ヲ一段落トシテ論述スヘシ當時王位ハ撰立ノ制ニシテ、國初五王ノ治世ニ於テハ元老院ニテ撰立權ノ多分ヲ掌握セリ國王ノ殂落ニ値フハ元老院ニ於テ現立ノ政体ヲ保續スハキヤ否ヤヲ詮議シ、若シ保續スヘシト決定スルハ議中ヨリ宰官一員ヲ撰舉シ、此宰官乃チ

國王トナスヘキ人ヲ撰定シ元老院ニ於テソノ撰定  
ノ當否ヲ准允シ人民之ヲ認可スルキハ大ト官ニテ  
天命ヲ託宜シテ之ヲ冊立ス若シ此三層ノ規式中其  
一、協和セサルキハ再ヒ他ニ撰立ノ舉ヲ施行セサル  
ヲ得ス

コノ政体ハ立君貴族民主ノ三質ヲ混交セルモノニ  
シテ國初ノ頃ニハ政權ノ分配甚タ能ク調停シテ絶  
エテ嫉妬爭論等ノ起リシ形迹ヲ見ス○國王ハ兵馬  
ヲ統領シ祭祀ヲ執行シ民法刑法ノ詞訟ヲ聽斷シ元  
老院ノ集會ヲ催シ人民ヲ召シテ公事ヲ會議セシメ  
其餘ノ機務ハ之ヲ元老院ニ謀リテ決定シタリ

元老院ノ威權ハ甚タ盛大ニシテ國王若シ訟庭ニ親  
臨スルコトアルハ其中ヨリ數人ヲ選ンテ以テ審判  
ノ當否ヲ商議シ且ツ豫メ元老院ニ下問シテソノ討  
論熟議ヲ經ル者ニアラサルヨリハ直ニ民會ヲシテ  
事ヲ議定セシメシコト有ラサリシ

人民ハ宰官ヲ撰舉シソレリユス、ソレハ官職ニ就クヲ尤サレタルニアラハス、ソレハ國士ハ人民ノ公撰ニア  
切ノ官吏ヲ撰舉スル權ヲ得タルニアラハス、新法ヲ  
承諾シ國王ノ允裁ヲ得テ戰ヲ起シ和ヲ講スルノ權  
利ヲ得シト雖モ司法權ヲ所有セサリシナリ○夫  
トリユス、ホステイリユース王カ曾テ人民ヲシテホ  
ラチユスノ獄ヲ判斷セシメシハ、金ク己ヲ得サル事

由アリシカ爲ノニテ全ク一時ノ變例ニ過キス

セルフス、トルリユス王ニ至テ國憲ヲ變革シテ、元老院カ國王、撰立スルノ權ヲ殺キテ人民ニ撰立ヲ爲サシメ親ラ民事ヲ聽斷スルノ權ヲ解キテ唯刑法ノ訟獄ノミヲ存存シ、一切ノ公事ヲ直ニ人民ニ諮詢シ人民ノ租稅ヲ減シ、厚ク貴族ニ聚斂シ、斯ノ如ク君權ト元老院ノ權威トヲ削弱シ從テ民權ヲ擴張セリ若ルキニ王其後ヲ嗣カサレハ、或ハ民主政ヲ設立セシナランタルキニ王ハ元老院ノ撰立ニ賴ラス、又人民ノ撰立ニ賴ラス、セルフス、トルリユス王ヲ以テ僭位者ト見做シ、乃チ世襲ノ權利ヲ主張シテ手カラ王冠ヲ戴ケ

リ、該王ハ元老數人ヲ殺戮シ偶、其職ニ殘ルモノアリシモ曾テ公事ヲ諮詢セス、又訟庭ニ臨テ審判ノ當否ヲ商議セシナシ斯ノ如ク王權ハ益、增長スルニ從テ益、人民ノ認可ヲ俟タサル而已ナラス、ソノ輿論ニ逆フテ新法ヲ制定シ、其極、民權ヲ篡奪シテ益、人民ヲシテ君權ノ過重ナルヲ憂慮セシノ、三權遂ニ一人ノ手ニ復歸セリ、然レ氏人民ハ此危急存亡ノ秋ニ瀕シテ始メテ己レハ素ヨリ立法官タルヲ追思シ、忽チタルキン王ヲ國外ニ放逐シタリ

第十三回 國王廢黜後ノ羅馬ヲ概論ス

羅馬ノ往蹟ノ如ク能ク讀史者ノ心意ヲ樂マシムル

モノアラサルナリ故ニ今日ニ於テモ行客ノ彼國ニ  
遊フモノハ更ニ都府ノ壯麗ナルニ流連スルヲ無ク  
皆ナ去テ杖履ヲソノ舊跡故趾ニ曳ケリ其趣ハ猶ホ  
人ノ目ヲ百芳ノ爛熳タルニ飽カシムルガハ却テ怪  
巖奇嶂ヲ見テ以テ其胸襟ノ愉快ヲ覺フモノ、如シ  
貴族ハ終始大ナル特准ヲ占有シテ王室ノ存立セシ  
際ト雖モ頗ル熾盛ヲ極メタリシカ、ソノ廢黜ノ後ニ  
至テハ更ニ一層ノ勢焰ヲ増加セリ、於是乎平民ハ嫉  
妬ノ心ヲ起シテ之ヲ滅殺スルニ拮据シ、貴族ト平民  
ノ間大ニ風波ヲ生シテ國憲ヲ刺衝シタリシト雖モ  
之カ爲メニ政府ノ威力ヲ衰弱ナラシメシヲ無シ是

レ宰官タルモノ苟モ其威權ヲ墜サ、ル以上ハ貴族  
ニテ其職ニ就クモ平民ニテ之ニ就クモ、敢テ國威ヲ  
害セサリシヲ以テナリ

羅馬ノ如キ撰立ノ立君政ハ必ス貴族ノ勢力ヲ藉ラ  
サレハ之ヲ維持スルヲ能ハス、若シ然ラサルガハ政  
体直ニ一變シテ專制トナラサレハ必ス民政トナラ  
シテ疑ヒナシ然レ已ニ民主國ト變スルニ至テハ  
之ヲ維持スルカ爲メニ復タ貴族ニ依頼スルヲ要セ  
ス、其故ハ立君政ニ在テ國憲ノ要路ニ當ルヘキ貴族  
モ統領ノ政治ニ至テハ無用ノ長物ニ屬シ而シテ人民  
ハ敢テ治安ヲ害スルヲナクシテソノ特准ヲ廢止ス

ヘク又國憲ヲ頽壞セシノスシテ變革ヲ行ヒ得ヘキ  
ヲ以テナリ  
セルフストルリュス王カ貴族ヲ抑壓セシ後羅馬ハ王  
政ノ羈輅ヲ脱シテ民人政府ト爲ル可キハ自然ノ勢  
ナリ殊ニ人民ニ於テ貴族ヲ壓制スルニ至テハ再ヒ  
王政ニ復古スル患決シテアル可ラサルナリ  
國家ノ鼎革スルニ二様アリ其一ハ國憲ヲ更改スル  
是レナリ其一ハ國憲ヲ頽壞スル是レナリ（一）國ノ  
大綱ヲ失墜スルヲ無ク唯ソノ國憲ノミヲ變革スル  
之ヲ更改ト謂フ國憲ヲ變革スルニ就テ併セテ其大  
綱ヲモ損失スル之ヲ頽壞ト謂フ

羅馬ハ國王ヲ廢黜シテ後チ民主政トナルヘキハ自  
然ノ形勢ナリ蓋シ王政ノ時ニ於テ人民ハ己ニ立法  
權ヲ掌握シ彼ノタルキン王ヲ廢黜セシモ全ク人民  
ノ公議輿論ニ出シモノニテ若シ此大義ヲ確守セサ  
ルハ再ヒ王室ヲ恢復セラルハ難キニアラサル  
ナリ然ルニ其成績ヲ見ルニ民主政ニ變セサル可ラ  
サルノ形勢アリテ直ニ茲ニ到ラサリシハ先ツ貴族  
ノ威權ヲ搏節シテ漸々民主政ニ趨クヘキ法律ヲ制  
定スルヲ以テ緊急ナリトセシ所以ニ由リシナル可  
シ夫ノ羅馬ノ人民カ國王ヲ廢黜セシヲ論シテ其謨  
猷ハ寡人政府ノ奴隸タルニ在リト爲ルカ如キハ當



時ノ事理ニ通セサルモノ、言ナリト謂ハサルヲ得  
ス  
國家ノ昌盛ハ國憲ノ一定確立セシメニ於ルヨリモ  
却テ不知不識此國憲ヨリ彼ノ國憲ニ遷移スルノ時  
ニ於テ更ニ著明ナルヲ屢ナリ、蓋シ國憲遷動ノ機ニ  
當テハ政府ノ氣力ハ擴張シテ弛マス、國士ハ權利ヲ  
討求シ政治上ニハ黨派ヲ生シテ互ニ相軋轢シ、或ハ  
親友トナリ或ハ敵手トナリ舊法ヲ固執スルアリ新  
法ヲ主張スルアリ、其爭競ハ實ニ貴重スヘキモノナ  
レハナリ

第十四回 國王廢黜、後、三權ノ分配法ヲ變

革シタル事情ヲ記ス

當時大ニ羅馬人ノ自由權ヲ壓抑セシモノ四件アリ、  
文武一切ノ官職ハ專ラ貴族ノ占領スル處トナリ、統  
領職ハ過重ノ威權ヲ掌握シ、人民ハ屢冤屈凌辱ヲ蒙  
リ、殊ニ政治上ニ於テハ民權ハ有レ止キカ如クニ  
シテ一毫ノ感動ヲ生シ能ハサリシニ在リ、之ニ因テ  
人民憤起シテ以テ此四害ヲ排除シタリ、其經過路ハ  
左ノ如シ

第一 其初ノ一定ノ官職ヲ設置シテ、平民ト雖モ之  
ニ登庸セラルヘキ章程ヲ制定シ、終ニハ攝政職ヲ除  
クノ外ハ一切ノ官職ニ舉ケラルヘキ資格ヲ有スル

ニ至レリ

第二 統領職ヲ解テ之ヲ數員ノ宰官ニ分任セシメ、  
民法ノ訴訟ヲ聽斷スルノ權ヲ以テプリートルニ歸  
シ、刑事ノ裁判ヲフェイストルニ屬シ、庶務ヲ掌ルニ  
ीडейルアリ、公財ヲ出納スルニ主計官アリ、終ニ監  
察官ヲ置テ國中ノ各族ヲ糾治スヘキ臨時ノ治法ヲ  
制定シ、以テ統領ノ國民ノ品行ヲ檢束スル處ノ立法  
權ヲ剝奪セリ、而ノ依然トシテ統領ノ手ニ殘リシ特  
權ノ大ナルモノハ、人民ノ會議ヲ管轄シ元老ヲ召集  
シ兵馬ヲ指揮スルニ過キサリシ

第三 聖法「アクレツナルモノニ基キテトリビユ」

ン官ヲ設置シ、其權ヲ以テ始終、貴族ノ專横ヲ抑制シ、  
而ノ一人ノ私害ヲ防止スルノミナラス一國ノ公害  
ヲモ防止セリ

約シテ之ヲ言フハ、平民ハ大ニ公會ニ於テ其權ヲ  
増加シタルナリ○抑、羅馬ノ人民ハセントリー、キ  
リ、及ヒトライブ、三類ノ區別アリテ人民ノ會議ヲ  
開クニ方テハ必ス此三類ノ一ノ名義ニ由テ集會シ  
テ、各其發言ヲ爲セリ

貴族、長者タル人物、富家、及ヒ元老ハ、總テ同一ノ地位  
ヲ占テ第一類ニ屬シ、政權ノ八九ハ殆トソノ掌握ス  
ル所トナリ、第二類ハ其權、稍、第一類ニ遜リ、第三類ハ

又第二類ニ劣レリ

セントリノ區別ハ其身分ノ如何ニ於ルヨリモ、資  
産ノ多寡ニ由テ之ヲ定メシモノ居多ナリトス、其法  
全國ノ人民ヲ舉テ一百九十三セントリト爲シ、各  
セントリニ一個ノ發言ヲ與ヘ、而シテ貴族ト長者タ  
ル人物ヲシテ第一セントリヨリ第九十八セントリ  
リノ多キヲ占有セシメ、餘ル所ノ九十五セントリ  
ヲ以テ自餘ノ人民ヲ總括セリ、故ニ此區別法ニ從  
フハ貴族ニテ常ニ發言ノ多數ヲ得シハ當然ナリ  
キ、リノ區別法ニ於テハ、貴族ハセントリニ於  
ルカ如キ利益ヲ占有シ能ハス、然レバ此會議ニテ議

定セハ事務ハ必ス之ヲ太ト官ニ商量セサルヘカラ  
ス時ニ太ト官ハ貴族ノ管轄ニ屬セリ、且ツ議案ヲ建  
白スルハニハ豫メ之ヲ元老院ニ出シテ其議定ヲ得ル  
ニアラサレハ之ヲ此會議ニ下付スヘカラス、故ニキ  
ユーリノ區別法ニ於テハ貴族、尚ホ多少ノ權アリ  
○トライブノ區別法ニ至テハ更ニ太ト官ニ問フヲ  
要セス、又元老院ノ議定ヲ俟ツヲ要セス、故ニ貴族ハ  
一モ之ニ關與シ能ハサリシ

當時、セントリノ區別法ニ從テ會議スルニ方テハ  
平民ハ常ニ一歩ヲ進メテキユーリノ區別法ヲ以テ  
集會セン、ニ盡カシ、己ニキユーリノ區別法ヲ以テ

會議スルヲ得ルニ至テ、尚ホ之ヲ以テ満足セス、トラ  
イブノ區別法ヲ以テ集會センコトヲ欲シ、終ニ公事議  
定ノ權ハ貴族ヲ去テ平民ノ手ニ歸スルニ至レリ  
其勢然ルヲ以テ平民ニテ貴族ヲ推問スルノ權ヲ得  
ルニ及テ件ヲ以テ其桶トス平民ハセントリルノ區別  
別法ニ依ルヲ止メテ、トライブノ區別法ニ從テ集會  
シ之ヲ裁判セント主張シタリ、又人民ノ爲メニトリ  
ビエーン及ヒイーデイルノ二官ヲ設置スルニ方  
テヤ、人民ハ之ヲ撰舉センカ爲メニ、キューリーノ區別  
法ヲ以テ集會スルコトヲ得タリ己ニシテ其權確立ス  
ルヤ平民ノ勢、益擴張シテトライブノ區別法ヲ以テ

集會シテ之ヲ撰舉スルニ至レリ

第十五回 羅馬ノ共和政、全盛ノ時ニ方テ、一

朝ニシテ其自由權ヲ失セシ所以

ヲ論ス

貴族、平民交、相闘キ、其雌雄未タ決セサルニ方テ、平民  
ハ確乎タル法律ヲ制定シ以テ從前ノ如ク公事ヲ裁  
斷スルニ執柄者ノ任意專權ニ出テサル治圖ヲ設立  
センコトヲ主張シタリ、元老院ハ力ヲ竭シテ此議ニ抵  
抗シタレ、凡衆寡相敵セシテ遂ニ當時ノ輿論ニ屈  
從シ、而ソノ法律ヲ纂輯セシメシカ爲メニ特ニデ  
セムウイル官ヲ宣命シタリ○此官ヲ設置シタル趣意

ハ全ク利害相反シテ水火相容レサル處、黨派貴族平民ノ爲メニ法律ヲ制定スルモノナルカ故ニ非常ノ威權ヲ付與セサレハ以テ其大任ニ堪ユ可カラスト思考シ、乃チ百官ノ撰舉ヲ停止シ此官ヲ以テ共和政ノ總理職ト爲シ、之ニ統領職トトリビューン官トノ威權ヲ兼帶セシメ、統領ノ權ヲ以テ元老院ヲ召集スルノ特准ヲ有シ、トリビューンノ權ヲ以テ人民ヲ集會スルノ特准ヲ有セシメタリ、然レモデセムウ井ルノ在職中ハ、曾テ元老ヲ召集セス又人民ヲモ召集セシメテ共和國ノ立法行政司法ノ全權ハ唯此十員ノ官吏ノ掌握スル所ト爲レリ、爰ニ至テ羅馬ハ再ヒタルキ

ン王ノ如キ暴戾壓制ノ奴隸界ニ復歸シ、昔日タルキン王カ人民ノ自由權ヲ滅絶セシメニハ其民權ヲ篡奪セシメテ憤怒シタリシカ氏、今日デセムウイルカ一舉一動悉ク其虐威ヲ逞フスルニアラサルハ無キニ方テハ、唯自ラ過重ノ權ヲ他人ニ委托シタルノ失策ニ驚駭セシノミニテ、復タ奈何トモ爲シ能ハサリシナリ

デセムウ井ルノ職ニ在リシモノハ素ト治務ニ鍊達セルノ故ヲ以テ人民ノ撰舉ニ膺リタル人物ナリシカ遂ニ政權、兵權ヲ兼有シ、而シテ其國民ヲ制御スルニ方テヤ敵國外患ニ對シテハ強勇不撓ノ氣力ヲ要シ、

内治ニ於テハ卑怯懦弱ニシテ屈辱ヲ甘受スルコトヲ  
要セリ、此權官ノ壓制ハ實ニ一種、暴政ノ變相ナリト  
謂ハサルヲ得ス

ウイルヂニヤノ父カ其女ノ貞節ト自由權ヲ辱シメ  
サランカ爲メニ、之ヲ手双セシ事變起ルニ至テ、デセ  
ムウイルノ權威ハ忽チ失墜シテ各人民ハ皆ナ自由  
ノ身ニ復歸セリ是レ其害ヲ蒙リタルハ各人民ニシ  
テウ井ルジニヤ一人ニ止ラサレハナリ又各人民皆  
ナ國士タルノ權利ヲ顯シタリ是レ父母ノ天倫アル  
ハ各人民皆ナ然ルヲ以テナリ於茲此奇異ナル虐民  
者ニ委任シタル自由權ハ之ヲ元老院ト人民ノ手ニ

回收シタリ

未タ羅馬人ノ如クソノ耳目ニ感觸スル所ヲ以テ其  
心思ヲ激動スルノ容易ナルモノヲ見サルナリ、ルク  
レシヤノ屍ノ慘憺ナルヲ見テ忽チ立君ノ政体ヲ顛  
覆シ正議家ノ滿身、創ヲ負テ議事堂ニ登リシカ爲メ  
ニ直ニ共和政ヲ變革シ、デセムウイルハウイルジニ  
ヤヲ殘虐シテ其職ヲ剝奪サレ或ハマニリュスノ罪  
ヲ糾弾セントシテハ先ツ人民ニ都城ノ景況ヲ目撃  
セシメ、シーザルノ鮮血、淋漓タル袍衣ヲ以テ再ヒ羅  
馬ヲ奴隸界ニ墮落セシメタリ

第十六回 羅馬共和政ノ立法權ヲ論ス

デセムウイルスノ治下ニ在テハ、人民更ニ争フヘキ  
ノ權利ナカリシカ、自由權ヲ回復セシ以來嫉妬ノ心  
再燃シテ、倘シ特准ノ貴族ノ手ニ存スルモノアレハ、  
必ス平民ノ奪取スル處トナレリ  
斯クテ平民ハ貴族ノ特准ヲ奪フタル勝利ヲ以テ自  
ラ足レルヲ知リタランニハ、或ハ其弊モ亦著大ナ  
ラサリシナルヘシ、然ルニ之ヲ奪フテ賢カス跋扈日  
ニ甚シク、遂ニハ貴族ヨリ國士タルノ權利ヲモ剝奪  
スルニ至レリ、蓋シ人民カキユリ一或ハセントリ一  
ノ區別法ヲ以テ集會セシ時ニハ、元老、貴族、平民ノ三  
族、混同シテ其議員タリト雖モ三族ノ議論相別レテ

決セサルニ方テハ、平民ニ限テ貴族元老ノ協議ヲ經  
ス、直ニプレビスシタート稱スル法律ヲ制定スルノ  
特權アリ、此法律ヲ制定スル處ノ集會ヲ稱シテトラ  
イブノ小會議ト云ハリ、於是ヤ貴族ハ時宜ニ依テハ  
立法權ニ關與スルヲ能ハス、聖法ニ據レハ、平民ハ貴  
族ヲ制定スルノ權アリ却テ他ノ屬族平民ノ制定シタル  
法律ニ屈服シタリ、デセムウイル廢黜ノ後ニ制定シ  
小會議ニ發言スルノ權ヲ得、而レハ貴族ハ平民ノ  
レビスシタル法律ニ遵從セサルヲ得、實ニ自  
由權ノ過度ト謂フ可キナリ、之ニ由テ是ヲ觀ルニ羅  
馬ノ人民ハ民主政ヲ立ント欲シテ其措置動作ハ知  
テ民主政ノ大綱ニ乖戾セリ、故ニ讀者必ス思想セシ、

民權斯ノ如ク過重ニ至ラハ元老院ノ威權モ忽チ滅  
絶ニ就カント然ルニ羅馬ニハ懿美ノ制度アリ就中  
二者ノ最モ著明ナルアリテ之ヲ維持シタリ即チ人  
民ノ立法權ヲ確定スル處ノモノト之ヲ制限スル處  
ノモノト是レナリ

監察官此官ヲ置カサル以前ハ統領羅馬ノ紀元三百  
十二年ニ至ルマ  
テ統領ハ尚ホ人民及ヒ其資ハ恰モ五年毎ニ人民ノ  
全體ヲ改造セルカ如ク立法權ヲ所有スル人民ノ爲  
メニ法律ヲ制定シタリ○シセロー曰クチベリユース  
グラキユスハ其雄辯ノカヲ恃マス帝ニ言語ト行狀  
トニ仗リ奴隸境ヨリ解放サレタル新平民ヲシテト

ライブノ戸籍ニ編入セシメタリ若シグシキユス此  
舉ヲシテ其效ヲ奏セシメサランニハ今日我輩ノ力  
ヲ以テ己ニ其頽勢ヲ挽回シ難キ處ノ共和政ハ疾ク  
ニ滅亡シテ其形迹ヲ遺サハルヘシト

又一方ニ於テハ元老院ノ設置アリテ恰モ共和政ノ  
人民ノ掌握中ニ沉溺セントスルヲ救ヒ出スノ權威  
アリ何ソヤ乃チダイクテートルヲ宣命スル是レナ  
リ此官職ハ其威勢甚タ熾盛ニシテ君權ナリト雖モ  
低頭屈服セサルヲ得サルカ故ニ最モ人民ノ好ム處  
ノ法律モ敢テ之ニ抗抵シ能ハサルナリ人民ノ好ム  
處ノ法律ト  
ハ若シ宰官ノ裁判ニ服セサレハ人民  
一體ニ控訴スルヲ許スカ如キ是ナリ



## 第十七回 羅馬共和政ノ行政權ヲ論ス

人民ハ大ニ立法權ノ爲ノニ熱心ニテ盡力拮据セシト雖モ、行政權ニ至テハ之ヲ精防スル念慮頗ル澹寧ナリシカ故ニ此權ヲ舉テ元老院ト統領職トニ委任シ、而シテ人民ノ掌中ニ存セシモノハ當ニ宰官ヲ撰舉シ、元老院及ヒ將帥ノ行爲ヲ認可スル等ノ數事ニ過キサリシナリ

羅馬人ノ火氣ハ他人ヲ誦令スルニ在リ、其名利トスル處ハ他國ヲ征畧スルニ在リ、而シテ其建國ト時運ノ進步トハ陸續トシテ起ル所ノ僭取、強奪ヨリ成就シ、而シテ始終危急ノ大事アリテ人民ノ頭上ニ懸リ、若

シ敵國羅馬ヲ侵攻スルニアラサレハ羅馬必ス敵國ヲ征討シタリ

羅馬ノ國勢ハ那邊ニ於テハ折衝禦侮ノ勇氣ヲ要シ、這邊ニ於テハ又深謀遠慮ノ廟算アラサル可ラサリシヲ以テ、機務治理ノ責任ハ之ヲ舉テ元老院ニ委托セサル可ラサル事ト爲レリ然レバ人民ハ殊ニ自由權ヲ珍重セシニ由リテ立法權ニ至テハ肯テ一歩モ之ヲ元老院ニ讓ラサリシト雖モ、又一國ノ榮譽ヲ博スル熱心、甚タ熾ナルニ由リテ、敢テ行政權ノ歸着スル處ヲ問フニ遑アラサリシ

ポリビュスノ書ニ據レハ元老院ノ行政權ハ甚ク重

大ニシテ他國ノ人民ハ視テ以テ貴族政ト思想セル  
ニ至レリ、何トナレハ元老院ハ國帑ヲ處分シ租稅ヲ  
徵收シ同盟國ノ機務ヲ決シ、統領ヲシテ戰ヲ宣ヘ和  
ヲ講セシメ、羅馬及ヒ同盟國、兵數ヲ豫定シ、統領ト  
リートルトニソノ管轄スヘキ州郡ト軍團トヲ分配  
シ、其任期已ニ滿ツルハ新官ヲ命スルノ權利アリ、  
黜陟賞罰ヲ施行シ國王ノ法官トナリ、國王、羅馬人民  
ノ良友タル美稱ヲ奉呈シ或ハ其徽飾ヲ追奪セリ  
統領ハソノ親ヲ引卒シテ戰場ニ赴クヘキ兵士ヲ召  
募シ海軍陸軍ノ元帥トナリ、同盟國ノ軍勢ヲ部署シ、  
州郡ニ在テハ共和政ノ全權大臣トナリテ亡國ノ人

民ニ平和ノ寬典ヲ與ヘ、或ハ之ヲ約束制御シ或ハ其  
事由ヲ元老院ニ申稟セリ

國初ノ頃、人民ハ和戰ノ大事ニ付テ喙ヲ容ル、ノ權  
利アリシト雖モ、其關與スル處ハ立法ノ點ニ重クシ  
テ行政ノ點ニ輕ク、其他ハ國王ノ行爲ヲ認定シ、國王  
廢黜ノ後ハ統領或ハ元老院ノ行爲ヲ認定セシニ過  
キサリシ、カノ行政官カ敢テトリビエーンノ異議ヲ  
顧ミスシテ開戰ノ令ヲ布告セシヲ見テ、以テ軍國ノ  
大事ニ於テ民權ノ微々タリシヲ徵スヘキナリ○  
然ルニ民權漸ク暢達スルニ及テハ傲慢ノ色ヲ顯シ  
テ大ニ行政ノ權ヲ増加シ、茲ニ於テ從來將帥ニ於テ

撰命セシ處ノミリタリトトリビユーシ官ヲモ人民  
ニテ撰舉スルニ至レリ羅馬ノ紀元四百四十四年ニ  
危急ニ迫マリシニ由テ元老院ノ決議ヲ以テ而ノ卑屈  
テ此法律ヲ止メ人民モ亦之ニ同意セリ  
ノ第一役ノ前後ニ至テハ平民ニ非サレハ開戦ノ令  
ヲ布告スヘキ權利ナシト議定シタリ平民ハ此權ヲ  
取セ

第十八回 羅馬政府ノ司法權ヲ論ス

司法權ハ之ヲ人民元老院宰官及ヒ特撰ノ法官ニ分  
任シタリ茲ニ其分任ノ方法ヲ講究スルニ先ツ民事  
ヲ以テ端緒ト爲スヘシ

國王廢黜ノ後統領ニテ司法權ヲ所有セシハ  
トリ官

ヲ置カサル前ハ統領ニテ民事裁判猶ホ統領ノ權ヲ奪  
判ノ權アリシハ疑フヘカラス  
フテ以來プリートルヲ以テ法官トナセシカ如シ其  
後セルビウストルリウスハ自ラ民事裁判ノ權ヲ解キ以  
來若シ非常ノ案件トリビユーシ官自ラ訴訟ヲ聽斷セ  
ス起ルニアラサレハ曾テ統領ニテ再ヒ司法權ヲ執  
リシ無ク統領ハ唯法官ヲ命シ數所ノ法院ヲ開設  
スル而已ニテ其他ニ干預セサリシナリ然レモデ  
ヨニシユスハカリナシユスニ所載ノアツピ  
クロジユスノ辯論ニ據レハ既ニ羅馬ノ紀元二百五  
十九年ノ頃ニ方テ此制度ヲ以テ一國ノ定例ト爲セ  
リトス然レハ又之ヲ速クセルビウストルリウスノ時代

ニ湖ルヲ要セサルモノ、如シ  
プリートルハ毎年法官ノ職ニ任スヘキ人物ヲ撰定  
センカ爲メニ、特ニ名簿ヲ製シ置キ、一件ノ詞訟起ル  
ニ會ヘハ其名簿中ヨリ相當ノ人員ヲ拔擢セリ、其制  
甚タ今日、英國ニ行ル、處ノ習俗（按）陪審法ニ髣髴スリ、就  
中ソノ人民ノ自由權ヲ愛護スル制度ト稱スヘキハ  
シセロ一日ク我カ先人ハ原被兩造ノ心服セサルモ  
シムルヲ法官ト爲シ、之ヲシテ銖銖ノ微ヲモ裁判セ  
ル名譽ニ關係スル事件ニ於テ、況ヤ國民原被兩造ノ承  
諾ヲ經テ法律ノ殘斷牘ヲ見テ、罪科、輕重ニ因テ  
法官ヲ撰用セシ方法ヲ知ルヘシ、其法或ハ擢任ニ依  
リ、或ハ投票ニ依レリ、要スルニ投票ニ擢任ヲ交用セ  
ナリモノ、プリートルカ法官ヲ撰定セシニ在リ、若シ今

日英國ノ制度ニ許多ノ變則ヲ加フルハ、乃チ羅馬  
ノ習俗ニ符合シテ同一ノ体裁ヲ爲サン  
法官ハ詞訟中ニ於テ譬ヘハソノ金額ハ既ニ償清セ  
シヤ否ヤ、或ハ一定ノ約實ヲ履行セシヤ否ヤノ事實  
ニ係ル處ノ有無ヲ決定スルノミニテ、夫ノ多少、才識  
ヲ要スル處ノ法律ノ詮議ニ至テハ、之ヲセントムウ  
ルスノ法院ニ上告セリ（按）官トナリ、而シテ總員ハ皆ナク、  
令ヲ遵奉セリ（指）  
刑事ノ裁判ハ國王ノ掌握スル處ト爲リ、ソノ廢黜ノ  
後ハ統領ニ歸シタリ、即チブルトス（按）統領カタルギンノ  
反逆ニ黨與セシヲ以テ己カ諸子ト其黨類トヲ併セ

テ死刑ニ處セシモ、全ク刑罰ノ權、其身ニ屬セシニ由  
レリ過重ノ權ト謂ハサルヘケンヤ、當時統領ハ已ニ  
軍旅ノ事ヲ掌リテ其威甚ク熾盛ナリ、然ルニ之ヲ擴  
充シテ民事ノ裁判ニ至リシカ故ニ、詞訟ヲ聽斷スル  
ニ方テモ規矩章程ヲ守ラス、大ニ正義公直ノ實ヲ失  
シ、其体裁ヲ見ルニ法律上ノ裁判ニ非ラスシテ、唯暴  
威暴力ヲ逞クスルノ行爲ニ過キサリシ  
其後ワレリヤン律ヲ制定セシハ全ク統領ノ暴威ヲ  
抑制センカ爲ノニシテ、若シ統領ノ裁判ニ由テ國士  
ノ性命ニ危殆ヲ生スルヲアレハ直ニ其人ヲシテ之  
ヲ人民ニ控訴スヘキ權利ヲ得セシメタルナリ、於是

乎統領ハ人民ノ承諾ヲ經スシテハ羅馬ノ國士ニ死  
罪ノ斷案ヲ擬シ能ハサルト爲レリ  
然ルヲ以テタルキンノ王室ヲ恢復セントシタル第  
一ノ反逆ニ方テハ統領アルトスニ於テ其犯人ヲ糾  
彈シ第二ノ反逆ニ於テハ元老院ト人民ノ小會議ト  
協同シテ之ヲ糾彈セリ  
神聖ノ名ヲ得タル殊別ノ法律ハ、平民ニトリビユ  
ニ官ヲ撰擧スヘキ特權ヲ付與セシモノ是レナリ、此  
法律ノ作用ニ依テ平民ハ一体ト爲リテ初ノヨリ廣  
大無限ノ權利ヲ要求セリ、此時ニ方テヤ平民ハ跋扈  
極リテ求ム可ラサルモノヲ求メ、元老院ハ式微ノ色

ヲ顯シテ與フ可ラサルモノヲ與ヘ、一傲一卑、其孰カ  
 甚シキヲ知ル可ラサリシナリ。○ワレリヤン律ニ據  
 レハ、凡百ノ詞訟ハ之ヲ元老、貴族、平民ヲ以テ成ル處  
 ノ國民ニ控告スルヲ准許セシモノナリ、然ルニ平民  
 ニ於テ更ニ法律ヲ制定シテ都テ控告ハ必ス之ヲ己  
 カ同族<sup>民</sup>平ニ爲ス可シト決定シタリ、故ニ未タ幾クナ  
 ラスシテ平民ハ果シテ貴族ヲ推問スヘキ權利アル  
 ヤノ議論ヲ生セリ而ソコリヨラヌスノ獄起ルニ方  
 テ此一事乃チ爭論ノ題旨ト爲リ、終ニ其獄ト共ニ廢  
 絶シタリ、先是、曾テトリビューン官ハコリヨラヌスノ  
 罪ヲ鳴ラシテ人民ニ控告セシニ、コリヨラヌスニ於

テハワレリヤン律ノ趣意ニ反シテ、其身ハ貴族ノ分  
 限アルヲ以テ統領ニ非サレハ己<sup>レ</sup>ヲ裁判スヘキ權利  
 ヲ有スル者無シト主張シ、人民モ亦此法ノ趣意ニ戾  
 リテソノ法官タルヘキ權利ハ人民ニ非サルヨリハ  
 之ヲ有セサル旨ヲ口實トシ終ニ其斷案ヲ擬定セリ  
 十二律ヲ制定シテ以テ此法ノ嚴厲ナルヲ和ラケ、凡  
 ソ人民ノ大會議ニ非サレハ重罪ノ案件ニ於テ國士  
 ヲ鞫訊スヘカラサルモノト爲シ、平民ノ一族、即チト  
 ライブノ會議ハ罰錢ヲ課定スルノ外ハ刑事ヲ判斷  
 スルノ權利ヲ失却セリ、蓋シ死罪ヲ擬定スルニハ特  
 ニ其法律ナカル可ラスト雖モ、罰錢ヲ課定スルカ如

キニ至テハ平民小會ノ議定ヲ以テ之ヲ施シ得ヘケ  
レハナリ

十二律ノ法度ハ極ノテ矜慎審明ニシテ能ク平民ト  
元老院トノ間ニ於テ權衡ヲ持平シ、以テ偏倚ノ患ア  
ルヲ防ケリ、是レ元老院及ヒ平民ニテ共有スル處ノ  
司法ノ全權ハ、罰典ノ輕重ト、罪科ノ性質ニ關係スル  
モノ居多ナルカ故ニ、必ス此兩族ノ協和一致ヲ得サ  
ル可ラサルヲ以テナリ

羅馬ノ政体ハワレリヤン律ノ制定ニ依テ夫ノ希臘  
上古ノ王政ニ肖似セルモノヲ一掃シテ其痕跡ヲ遺  
ス、無統領ハ施刑ノ權利ヲ奪却セラレタリ○原來、

凡百ノ罪惡一トシテ國家ノ公罪ニ非サルハ無シト  
雖モ、其中、自ラ國士互相ノ交際ニ密接スルモノト、又  
臣民ニ相因リテ國家ノ治体ニ直接スルモノトノ別  
アリ、今其區域ヲ定メテ其一ヲ私罪トシ其二ヲ公罪  
トス、其公罪ニ係ルモノヲ鞠訊スルハ人民一体ノ公  
權ニ屬シ私罪ニ係ルモノヲ所分スルカ爲メニハ人  
民ニテキエストル官 警査ト呼ビ做ス特撰ノ官吏ヲ置キ  
テ之ヲ糾彈セシメタリ○而ノ人民ノ撰舉ニ膺リタ  
ル人物ハ、大概宰官ノ職ニ在ルモノ居多ナリト雖モ、  
時宜ニ從テハ私人ト雖モ亦之ニ任スルコトアリ、此官  
吏ヲ人命案ノ警査官ト稱シテ詳ニ十二律ニ掲載セ

リ  
キエストル官ニテ一件ノ專理負タルヘキ法官ヲ撰命  
シ、此法官ハ投票ノ法ヲ以テ自餘ノモノヲ撰舉シ、法  
院ノ規則ヲ設立シテ其院長トナセリ  
元老院ト人民トノ二權ヲ持平シテ偏倚アラサル所  
以ヲ通知セント欲スルニハ、須ラク先ツキエストルノ  
撰任ニ方テ元老院ノ權利ハ果シテ幾多ナルヤヲ論  
究セサル可ラス、或ル時ハ元老院ニテダイクテート  
ルヲ撰舉ミテ以テキエストルノ職掌ヲ執行セシノ  
利ニ於テ罪ヲ犯スハ殊ニ元老院  
ノ監察ヲ要セシカ故ニ此事アリ  
又或ル時ハ元老  
院ハキエストルヲ撰舉ヒシムルノ目的ヲ以テトリミ

一官ニ命シテ人民ヲ召集セシメタリ○約シテ之  
ヲ言フニ人民ハ一負ノ宰官ヲ命シテ特格ノ罪犯之  
アルニ方テハ其事由ヲ元老院ニ報告シテ、元老院ニ  
キエストルノ撰命アラントヲ請求シタリ、李維ノ史記  
ニリユス、シ、ピオノ裁判ヲ記載スルモノ即チ是  
レナリ

羅馬ノ紀元六百〇四年ニ方テ此委員ノ中ノ數課ヲ  
以テ常任ノ官職ト爲シ、漸ク刑事ノ訟獄ヲ區別シテ  
數項ト爲シ、之ニ定件ノ名ヲ下シ而シテ數負ノブリ  
トルヲ置テ一負ニテ二三ノ定件ヲ專任セシメタリ、  
此ブリートル官ハ一定ノ期限中已カ專任ノ定件ニ



属シタル刑獄ヲ聽斷シ、任期已ニ滿ツレハ出テ地方ノ守牧トナレリ

カルテ、デニ於テ所謂百員ノ元老院ハ皆テ終身ソ

ノ尊爵ヲ享クル處ノ法官ヨリ成レリ李維ノ史記四十三卷ニハ

ニバルカ其任期ヲ一年然ルニ羅馬ニ於テハトナセシヲ記セリ

トルハ一年ニシテ其職ヲ解キ、法官ハ一件ノ訟獄、起

ル毎ニ之ヲ命シテ事決スレハ乃チ止ノ曾テ一年ノ

久シキニ至ラサリシナリ、此制度ハ政府ノ性質ニ依

リテ其タ人民ノ自由權ニ必要缺ク可ラサルヲハ、已

ニ第六回ニ之ヲ論述セリ

グラキーノ統領ノ治世ニ至ルマテハ法官ヲ元老ノ中

ヨリ撰仕シタリシカ、チベリウス、グラキウスニ及テ之

ヲ騎士族ヨリ撰任スルノ法律ヲ制定セシメタリ、實

ニ一大變革ト謂ハサル可ラス、彼ノトリビューンカ一

擊ノ力ヲ以テ元老院ノ威權ノ命脈ヲ剪斷セシト誇

稱セシハ即チ此事ヲ謂フナリ

國憲上ノ自由ニ關涉シテ臣民ノ自由ニ關涉シテハ

然ラサルモ政府三權ノ分配ハ果シテ其當ヲ得ルヤ

否ヤヲ論究スル一甚タ緊要ナリトス○羅馬ニ於テ

ハ人民ニテ立法權ノ大分、行政權ノ一分、及ヒ司法權

ノ一分ヲ掌握シ、從テ民權ノ勢ハ政府ニ對シテ頗ル

重大ニ過キ終ニ之ヲ平均センカ爲ノニ他ノ權カ

ヲ設置セサルヲ得サルニ至レリ、固ヨリ元老院ハ行政權ノ一分ト立法權ノ二三分ヲ所有セシト雖モ元老院議定ノ法律ハ人民ノ認可ヲ俟タスシテ民權ノ職一年ノ間ハ之ヲ施行スヘキノ權力アリ、職威ナルニ對峙スルヲ能ハサリシヲ以テ司法權ニ於テモ亦一分ヲ所有セサル可ラス、因テ法官ヲ撰舉スルニ方テ其可否ヲ發言スルノ權利ヲ有セリ、然レ氏グラキーカ元老院ノ司法權ヲ殺取スルニ及テハ羅馬紀元六元老院ノ勢衰シテ己ニ人民ニ抵抗ス百三十年ノ權威アラサリシナリ、是故ニ此舉ハ人民ノ自由ヲ擴張センカ爲メニ國憲上ノ自由ヲ破却シタル者ナリト謂フト雖モ、政權ノ衰頽スルニ從テ遂ニ民權

モ俱ニ滅絶スルニ至レリ

此一舉ニ由リテ所生ノ弊害ハ、實ニ枚舉ニ暇アラサリシ、何ソヤ、羅馬ハ内訌ノ鼎沸ニ依リテ殆ント一國ノ典章ヲ廢爛シテ予遺スルモノナキニ方テ、國憲ヲ變改セリ而シテ從來、騎士族ハ人民ト元老院ノ中間ニ存在シテ此二族ヲ協和一致セシメタルモノナリシカ、其効用、茲ニ止ミテ從テ國憲ノ綱紀ヲ解弛シタル是レナリ

殊ニ司法權ヲ以テ騎士族ニ移歸ス可ラサルハ殊別ノ道理ノ存スルアリ、何トナレハ羅馬ノ國憲ハ充分ノ資産アリテ之ヲ以テ品行ノ端正ナルヲ國家ニ

保証シ得ヘキ人民ニ非サルヨリハ兵隊ニ編入セサルモノニシテ、而シテ騎士族ハ概シテ資産ニ富メルノ故ヲ以テ其一族ヨリ驃騎ノ軍團ヲ編成セリ、然ルニ一タヒ司法權ヲ掌握シテ其地位ノ尊榮ヲ極メシニ至テハ、執鞭ノ苦役ニ就クヲ屑シトセス、於是己ムヲ得スンテ他族ヨリ騎兵ヲ召募スルヲトナレリ、其後マリユシユスニ至テ全ク人民ノ種族ヲ問ハスシテ兵隊ヲ編成シ、之レカ爲メシカラスシテ共和政ヲ喪失シタリ

加之、騎士族ハ租税ヲ徵收スヘキ職務アリ、夫レ收税官吏ニシテ貪婪苛刺ナル者ハ人民ノ疾苦ハ名状ス

ヘカラサルモノアルヲ以テ、不斷、法官ノ明察ニ因テ其操守ヲ監視スヘキニ却テ之ニ司法權ヲ與フルハ實ニ事理ニ背馳スルノ甚タシキト謂ハサルヲ得ス

○我カ佛蘭西ノ舊法ニ據レハ法官ノ收税吏ヲ視ルハ猶ホ敵人ノ舉動ヲ窺フカ如ク、瞬時モ其心ヲ弛ノ其目ヲ休メシメ無シ、宜シク採用スヘキ制度ナリ、故ニ夫ノ羅馬ノ司法權ハ一タヒ税吏ニ移歸シテヨリ懿德ハ勿論、典章律令ノ如キモ共ニ滅絶シテ復タ見ルヘカラサルモノトナレリ

此變革ニ就テデヨドルス、シキユルス及ヒジヨールノ殘篇ヲ讀テ其景況ノ如何ヲ察知スルニ足ルモノア

リ○デヨドルスニ云ク、ムチュス、シフラー  
清廢ナルハ、  
法官ノ名ハ、  
昔日ノ端正ナル品行ヲ再興シテ勤儉ノ風俗ニ歸向  
セシメント盡カシタリ、然ル所以ハ舊法官ノ任期中  
ハ都城ニ於テ司法權ヲ兼有シタル收税官ニ結ンテ  
表裏奸ヲ爲シ、大ニ地方、人民ノ風儀心術ヲ頽壞セシ  
ノタルヲ以テナリ、故ニシフラーハ、彼ノ收税官ノ爲  
メニ禁獄セラレシモノヲ解放シテ、却テ其禁獄ヲ命  
シタル處ノ收税官ヲ禁獄シ、以テ之ヲ警戒セリ  
デヨールニ云ク、ソノ副官タルボグリエス、リユチリユ  
スハ、齊シク騎士族ノ怨惡スル處トナルニ由リ、ソノ  
任滿チテ都府ニ歸ルヤ否ヤ、在職ノ間、曾テ賄賂ヲ得

タルノ罪名ヲ負ヒ、從テ法官ニ糾彈セラレテ罰鍰ヲ  
納ムヘキニ裁決セラレ、因テリユチリエスノ資産ヲ  
檢査セシニ家ニ餘蓄ナキノミナラス、行李、蕭然トシ  
テ一モ糾彈ノ詞ニ應スルモノナク、偶、其所有ニ属ス  
ルモノハ盡ク正理ニ於テ一家ノ私物タルヲ顯然ニ  
シテ、直ニ其冤罪タルヲ發見セリ、然レ氏、リユチリ  
ユスハ斯ノ如キ惡風汚俗ノ淵藪タル都城ニ居住ス  
ルヲ不快ナリトシ、遂ニ其家ヲ棄テ、他國ニ大去シ  
カリ

デヨドルスニ又云ク羅馬人ハ其田地ヲ耕種シ其牛  
羊ヲ牧飼セシモンカ爲メニシ、リー島ヨリ一羣ノ

奴隸ヲ購買セリ然レバ之ニ衣食ヲ給與スルヲ無ク、  
唯命シテ手ニ槍ト棍トヲ携ヘ、身ニ獸皮ヲ被ムリ巨  
燄ヲ熾シテ其後ニ追從セシノ大道ニ赴テ行旅ノ資  
財ヲ掠奪セシノタリ、故ニ道路ニ人跡ナク土地荒蕪  
シテ、城堡内ニアル處ノ物品ニ非サレハ、人民以テ已  
カ所有ト爲スヲ得サリシ然レバ當時統領又ハプリ  
ートル官ノ其地ニ守臨セサルニアラサレバ一人ト  
シテ此亂暴ヲ鎮壓シ、或ハ奴隸ノ罪惡ヲ懲罰セルモ  
ノナカリシナリ、是レ此奴隸ハ騎士族ノ所有ニ屬シ、  
騎士族ハ司法權ヲ掌握セシヲ以テナリ、此亂暴、竟ニ  
夫ノ奴隸ノ反亂ヲ釀シタル原因トナレリ○茲ニ又

一語ヲ添ユヘキモノアリ、何ソヤ其職務ノ然ラシム  
ル處其耳、哀愁ノ聲ニ聳ニシテ、其心、惻隱ノ情ニ疎キ  
モノハ、財利ノ一物ヲ除テ更ニ他ニ思念スル處ナク、  
恆ニ物ヲ取ルヲ知テ物ヲ與フルヲ知ラス、富家ヲ  
侵シテ貪ナラシノ貪者ヲ虐シテ益貪ナラシムルカ  
如キ者收稅官吏ニハ、決シテ司法權ヲ委任ス可ラサル是  
レナリ

第十九回 羅馬ノ地方政治ヲ論ス

羅馬ノ三權ヲ分配スルノ法ハ前文ニ論述スルカ如  
シト雖モ、其州郡ニ至テハ大ニ其体裁ヲ異ニシテ都  
城ハ自由權ノ匯合スル中心ト爲リ、遐境僻陬ハ暴政

苛法ノ流行スル區域ト爲レリ

羅馬ノ版圖未タ盛大ヲ致サス其政令ノ光被スル處  
唯伊太利一國ニ過キサリシ頃ニハ人民ヲ治ムルニ  
同盟ノ好誼ヲ以テシ共和邦各自ノ法律ヲ保存シタ  
リシカ氏一タヒ外國ヲ征服シテ藩屬ト爲セシ以來  
元老院ハ既ニ州郡ノ政ヲ直管セス且都城ニ住居ス  
ル處ノ宰官ノ威權ヲ以テ州郡藩屬ヲ控制シ能ハサ  
ルニ及テテコロコンシユル及ヒプリートルノ二官ヲ  
地方ニ駐割セサルヲ得サルノ形勢ニ移レリ於是三  
權ノ分配法其權衡ヲ失フテ守牧ノ任ニ膺ルモノハ  
都城ニ於ル百宰官ノ權威ヲ兼有セルノミナラス元

老院ト人民トノ特權ヲモ操持シ

ノ任地ニ赴キ車ヲドルニ方テハ谷都城ヲ距ル一益  
自ニ法律ヲ制定シテ之ヲ頒布ヒリ  
遼遠ナルニ從テ其威權ヲ專用スル一益重大ニシテ  
一身三權ヲ兼有スル一宛モ共和政ノバシヨ一  
裁獨

權職ニ異ナラサリシ

民主政ニ於テハ一員ノ宰官ニ文武ノ二權ヲ兼帶ヒ  
シムヘキハ既ニ前回ニ論セシカ如シ然ルヲ以テ共  
和邦ニテ他國ヲ征服シテ郡縣ト爲スニ方テハ之ニ  
本國ノ政治ヲ敷施スル一容易ナラス又本國ノ憲典  
ニ照依シテ之ヲ制御スルハ又難事ナリ然ルニ之ヲ  
鎮壓センカ爲ノニ差遣スル所ノ宰官ニハ文武行政

ノ二權ヲ委任セサルヘカラス、殊ニ亡國ノ人民ハ法律ヲ制定スヘキ資格ヲ有セサルヲ以テ、立法權ヲモ亦付與セサル可ラス、又亡國ノ人民ハ曲直ヲ裁判スヘキモノニアラス、故ニ司法權ヲモ付與セサル可ラス、是レ地方ノ守牧タルモノハ羅馬ノ往蹟ニ從テ、必ス三權ヲ委任セサルヲ得サル所以ナリ  
立君國ヨリ差遣スル所ノ守牧ハ、本國ノ政治ヲ敷施スルヲ共和邦ニ比スレハ更ニ容易ナリトス、是レ立君國ノ宰官ハ文武二途ニ分レテ、一人ハ文事行政ノ權アリ一人ハ軍務行政ノ權アリテ曾テ政柄一人ノ手ニ収シテ專斷無限ニ至ルノ患ナケレハナリ

羅馬ノ國士ハ其人民ノ裁判ニ非サレハ承服スヘカラサルノ特准アリテ、其結果ハ大ニ民權ノ羽翼トナレリ、蓋シ若シ人民ニ非スシテ法官タルヲ得ルハ、國士ノ郡縣ニ住スルモノハ必スプロコンシユル或ハプロプリートルノ暴虐ニ苦シメラル可ケレハナリ、故ニ宰官ノ暴虐ハ唯、亡國ノ郡縣タルモノニ行ハル、ノミニテ、都城ニハ絶テ其事ナカリシ  
之ニ據テ之ヲ見ルハ、羅馬ノ天下ハ斯巴爾達ト其轍ヲ同シクシテ、自立ノ人民ハ自由權ノ極點ニ進シ、自主ノ權ヲ失フタルモノハ奴隸トナリテ無限ノ勞役ニ驅使セラレタリ

國士ニテ租税ヲ貢納セシ頃ハ、収歛ノ法、甚タ公平ニシテ更ニ厚薄偏頗ノヲ無ク、能クセルフユス、トルリユスノ規律ヲ遵奉セリ○其規律ハ資産ノ多寡ニ從テ人民ヲ六級ニ分チ、各人、政務ニ關與スルノ輕重ニ應ジテ納税ノ義務ヲ伸縮セリ、故ニ國中ニテ信任、体面ノ大且重ナルモノハ、ソノ租税從テ大且重ニシテ、其小且輕ナルモノハ其義務モ亦小且輕ニシテ、貧富各、其分限ニ安セリ

其他、讚美スヘキ一事アリ、即チセルフユス、トルリユスカ人民ノ等級ヲ區別セシヲ以テ國憲ノ大綱ト爲セシニ依リテ、租税ノ徵收ノ能ク公平ヲ得タルモ全

此大綱ニ從テ相生シ、國憲ト租税トハ互ニ相因テ消長シ其一ヲ廢ス可ラサリシ是レナリ

然ルニ都城ニ於テハ人民ノ意ニ任セテ租税ヲ貢納シ、或ハ全ク之ヲ貢納セサル<sup>マセドニ</sup>テ後羅馬人ハ租税<sup>マセドニ</sup>ヲ貢納ニ於ルト雖モ州郡ニ於テハ騎士族專ラ徵收ノ事ヲ掌リシカ故ニ、大ニ人民ノ疾苦ヲ増セリ、其騎士族、苛虐ナル景況ハ歷史上ニ昭々タル証據アリ、己ニ前ニ論セシカ如シ

シトリダス曰ク亞細亞ノ州郡ハ我レ行テ之カ救主タルヲ渴望スト、實ニ人民カ<sup>マセドニ</sup>プロコンシユルノ貪婪ナル收税官吏ノ刺薄ナル、及ヒ訴訟ニ就テ苞苴、勒索



ノ弊ノ流行セルヲ怨惡シテ、遂ニ藩屬ノ離畔ヲ催促セシメ斯ノ如シ  
藩屬ノ強盛ハ以テ本國ノ強盛ヲ増スニ足ラサルノミナラス却テ以テ之ヲ減削シ又藩屬ノ人民ハ羅馬人カ自由權ヲ失スルヲ見テ己カ獨立ヲ回復スルノ良機ト爲セリ、ソノ所以ハ、全ク前文ノ事情ニ出テシナリ

第二十回 結論

各國ノ人民カ自由權ヲ受用スル程度ヲ測定センカ爲メニ、今日、吾人ノ知ル處ノ立憲政府ヲ通覽シテ、其三權ノ分配法ヲ論究スルハ記者得意ノ課業タリ、然

リト雖モ茲ニ論題ノ要ヲ罄サスシテ、讀者ノ爲メニ思慮ヲ用ユヘキ餘地ヲ遺スハ蓋シ記者ノ趣意固トヨリ讀者ヲシテ事理ヲ考究セシムルニ在テ、徒ニ誦讀ニ止マラサルヲ以テナリ

萬法精理

卷之十一

仁山齋

萬法精理卷之十一畢

明治八年十一月廿八日版權免許

繙譯並出版人 何禮之

東京富士見町四丁目十一番地

馬喰町二丁目

芝太神宮前三島町

日本橋通三丁目

南傳馬町二丁目

島村利助

山中市兵衛

丸家善七

穴山篤太郎

發兌  
書林